

大学機関別選択評価

# 自己評価書

平成30年6月

岡山大学



# 目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択評価事項C 教育の国際化の状況	4



## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 大学名 岡山大学

(2) 所在地 岡山県岡山市

(3) 学部等の構成

**学部：**文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部、マッチングプログラムコース、グローバル・ディスカバリー・プログラム

**研究科：**教育学研究科、社会文化科学研究科、自然科学研究科、保健学研究科、環境生命科学研究科、医歯薬学総合研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、法務研究科、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(参加校)

**専攻科：**特別支援教育特別専攻科

**別科：**養護教諭特別別科

**研究所：**資源植物科学研究所、惑星物質研究所、異分野基礎科学研究所

**関連施設：**岡山大学病院、評価センター、保健管理センター、環境管理センター、情報統括センター、グローバル・パートナーズ、グローバル人材育成院、地域総合研究センター、教師教育開発センター、中性子医療研究センター、自然生命科学研究支援センター、生殖補助医療技術教育研究センター、埋蔵文化財調査研究センター、附属図書館、全学教育・学生支援機構、研究推進産学官連携機構、安全衛生推進機構

(4) 学生数及び教員数 (平成30年5月1日現在)

学生数：学部10,157人、大学院2,988人

専攻科：12人、別科：40人

専任教員数：1,243人、助手数：8人

### 2 特徴

本学は、昭和24年に、官立旧制岡山医科大学、官立旧制第六高等学校等を母体として、5学部を擁する新制の総合大学として設立された。現在11学部8研究科を擁する我が国有数の総合大学として発展を遂げている。これら学部・研究科は、新幹線「のぞみ」が停車するJR岡山駅から徒歩圏の2大キャンパスにあり、好適な教育・研究環境を備えている。

本学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に向け邁進するため、学長のリーダ

ーシップの下、我が国有数の総合大学として、真に国際的な学術拠点、都市・地域と連携した「学都の創生」を目指し取り組んでいる。

第2期中期目標期間(平成22～27年度)では、「研究大学強化促進事業」「臨床研究中核病院整備事業」等により、世界で研究の質、量ともに存在感を示す「リサーチ・ユニバーシティ(研究大学)：岡山大学」の構築を目指し、また、「スーパーグローバル大学創成支援事業(グローバル化牽引型)」等に採択され、全学部全学科での国際バカロレア入試の導入、全学60分授業・学部の4学期制の導入、学士課程教育構築システム(Q-cum system)の導入による学修成果の可視化等、アウトカムに重点を置く教育の改革に取り組んだ。

第3期中期目標期間(平成28～33年度)では、重点支援③「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」を選択の上、大学の機能強化を進めている。具体的には、医療法上の臨床研究中核病院及び橋渡し研究戦略的推進プログラムへの採択、医工連携と文理融合を特徴として高齢化社会の種々の課題を解決する人材育成を目指すヘルスシステム統合科学研究科の設置、共同利用・共同研究拠点である地球物質科学研究センターの惑星物質科学研究所への改組、異分野基礎科学研究所及び中性子医療研究センターの設置などにより、研究面での存在感を高め、教育面では、60分授業・4学期制の開始、実践型社会連携教育の拡充、グローバル・ディスカバリー・プログラムの開設などを行い、世界トップ大学と伍して卓越した教育研究の推進を目指して、計画を順調に実施している。

平成29年度、槇野学長はその就任にあたり、槇野ビジョンを掲げて、国立大学法人運営費交付金が減少する中で、大学改革の成長戦略と健全運営を両立させて「大学改革の実質化」を図るために、MBO-S(自立性を重んじた目標による管理)とIR/IE(Institutional Research/Institutional Effectiveness)で再循環・再発見して改革戦略や組織をリ・デザインしていく方向性を示している。また、国連より提唱された「持続可能な開発目標」

(SDGs:Sustainable Development Goals)を学内共通の目標として、国際的に協働して取り組むこととしている。

## II 目的

### 一 岡山大学の理念、目的及び目標

本学の目的については、国立大学法人岡山大学管理学則第10条にて、「本学は、広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、その成果を広く社会に提供することにより、世界文化の進展に寄与することを目的とする。」と定めている。また、大学院の目的については、同学則第53条にて、「岡山大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは、専門職大学院とする。」と定めている。各学部、各研究科等の目的は、＜別紙資料：各学部、各研究科・各研究所等の目的＞のとおり定めている。

また、国立大学法人化に際して、本学の理念、目的及び目標を以下のとおり明示している。

#### 本学の理念

“高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

#### 本学の目的

“人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

#### 本学の目標

##### (1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

##### (2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。

常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

##### (3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利点を活かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時

に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

#### (4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

#### (5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。

本学におけるこれらの基本的目標の達成に向けて、第3期（平成28年度～平成33年度）中期目標前文において、次のように、文部科学大臣によって本学の基本的な目標が定められ、中期目標・中期計画の達成を目指している。（下線部が、本自己評価書の「教育の国際化」に関連する。）

### 国立大学法人岡山大学中期目標（第3期）

（前文）大学の基本的な目標（抜粋）

第3期中期目標期間では、急激な少子高齢化・グローバル化を見据えて、聖域なき組織横断型改革を断行するとともに、世界のリーディング大学に伍して、教育、研究、社会貢献の全ての分野で創造的な知性を牽引する大学となるための施策を遂行する。教育では、国際社会や地域社会と連携した実践的教育、世界の異文化を深く体験するグローバルな教育を含む異分野連携教育の展開による「学びの強化」に取り組む。研究においては、異分野融合科学や医療の分野を中心に、世界の卓越した研究機関との密接な連携を強力に推進して、世界トップレベルの研究拠点を形成する。大学経営については、徹底したガバナンス改革に加え、女性・外国人を含む多様な人材活用と協働環境の実現を通じて、全学的な教育研究組織と経営システムの再構築を図る。

岡山大学は、このような改革を通じて、人類が蓄積してきた知と、最先端の知とを総合的に継承するとともに、世界に向けて創造的な知の成果と技の結実を発信し、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを目標とする。

その後、平成29年に就任した榎野学長は、国連より提唱された「持続可能な開発目標」（SDGs: Sustainable Development Goals）を学内共通の目標として、SDGsに関する岡山大学の行動指針を定めた。

## 二 岡山大学×SDGs

岡山大学は、その理念・目的の下、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していく。

### 【SDGsに関する岡山大学の行動指針】

1. 人類共通の今日的課題であるSDGsへ貢献することは、岡山大学の理念である「高度な知の創成と的確な知の継承」のもと、岡山大学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に資するものである。
2. ユネスコチェアを持ちESD（Education for Sustainable Development）を推進してきた岡山大学には、岡山地域や国際社会と一体となってSDGsを推進していく素地と責任がある。
3. SDGsを社会との共通言語として教育研究並びに社会貢献活動を行っていく。
4. SDGsの達成に貢献することで、課題解決力に秀でた人材を育成する。

### Ⅲ 選択評価事項C 教育の国際化の状況

#### 1 選択評価事項C 「教育の国際化の状況」に係る目的

本学は、法人化に際して、理念・目的を定め、さらに教育・研究・社会貢献・経営・自己点検評価の基本的目標を定めている。平成23年に就任した森田前学長は、森田ビジョンで国際的な美しい学都構想を掲げ、そのための中長期的な国際戦略として平成24年3月「岡山大学・国際戦略ビジョン21」を策定した。この本体部分は、Ⅱ. 基本理念とⅢ. 基本方針からなり、前者が本自己評価における「教育の国際化の状況」に係る目的、後者が目的を達成するための計画や具体的方針にあたる。Ⅱ. 基本理念を以下に示す。

本学が目指す国際化・グローバル化の基本理念

1. 世界水準の教育研究分野を擁した、個性的な国際学術交流の拠点となる。
2. グローバルに活躍する地域の中核的人材育成の拠点となる。

その後、平成26年9月には、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、「PRIME (PRACTICAL Interactive Mode for Education) プログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！」の構想に取り組んでいる。PRIMEプログラムでは、その目的を以下のように設定している。

PRIMEプログラムの目的

学生が3基幹力／3 powers（教養力、語学力、専門力）を修得し、3側面／3 faces（異分野、異社会、異文化）の経験を持てるように、3×3（スリー・バイ・スリー）教育を全学体制で推進し、世界トップステージで活躍できる実践人を育成する。

なお、PRIMEプログラムの具体的な計画は、平成26年度末に第2期中期目標・中期計画の「戦略性が高く意欲的な計画」として追記した。また、第3期中期目標期間（平成28年度から平成33年度）では、その前文に掲げられる大学の基本的な目標の中で、「教育の国際化の状況」に関する事項が以下のとおり定められている。

（前略）急激な少子高齢化・グローバル化を見据えて、聖域なき組織横断型改革を断行するとともに、世界のリーディング大学に伍して、教育、研究、社会貢献の全ての分野で創造的な知性を牽引する大学となるための施策を遂行する。教育では、国際社会や地域社会と連携した実践的教育、世界の異文化を深く体験するグローバルな教育を含む異分野連携教育の展開による「学びの強化」に取り組む。（中略）世界に向けて創造的な知の成果と技の結実を発信し、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを目標とする。（後略）

さらに、平成27年度に国連より提唱された「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」を、学長のリーダーシップの下で学内共通の目標として、国際的に協働して取り組むこととしており、以下のとおりSDGsに関する岡山大学の行動指針を定めている。

1. 人類共通の今日的課題であるSDGsへ貢献することは、岡山大学の理念である「高度な知の創成と的確な知の継承」のもと、岡山大学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に資するものである。
2. ユネスコチェアを持ちESDを推進してきた岡山大学には、岡山地域や国際社会と一体となってSDGsを推進していく素地と責任がある。
3. SDGsを社会との共通言語として教育研究並びに社会貢献活動を行っていく。
4. SDGsの達成に貢献することで、課題解決力に秀でた人材を育成する。



## 2 選択評価事項C「教育の国際化の状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

観点C-1-①：大学の教育の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

#### 【観点到に係る状況】

平成24年3月に策定した「岡山大学・国際戦略ビジョン21」の中で、目的を達成するための計画や具体的方針にあたる「Ⅲ. 基本方針」を以下のとおり定めている。

#### 1. 各部署の国際戦略の策定

全部局(法務研究科を除く)において固有の分野での国際戦略を策定

#### 2. 国際的な人的交流の推進

- 1) 教職員の海外派遣、日本人学生の海外留学の拡大
- 2) 留学生の受入れ拡大
- 3) 外国人研究者の受入れ拡充

#### 3. 地域との連携強化

国際的な学都の創成には自治体、経済界、各種団体の協力が不可欠

#### 4. 海外ネットワークの組織化

①留学生同窓会の設立支援、②国際的学長間連携の推進

#### 5. 教職員・キャンパスの国際化

- ・教職員の海外研修等の機会を拡充（特に事務職員の英語対応能力の飛躍的向上）
- ・学内文書の英文化、外国人に配慮したキャンパス環境の整備
- ・外国人教員数を一定水準まで引き上げ

#### 6. 国際化・グローバル化推進体制の整備

- ・国際戦略会議を設置する等により、総合的な国際戦略を策定・実践する推進体制を整備
- ・海外に拠点等を整備・拡充
- ・インフラ等の整備

①海外入試制度、②学費免除・奨学金制度、③施設、④海外インターンシップ

【出典：国際戦略ビジョン21 [http://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/kokusai-pdf/vision\\_21.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/kokusai-pdf/vision_21.pdf)】

その後、平成26年4月に大学改革担当理事（専任）及び大学改革担当学長補佐を配置して、改革を加速・強化してきた。そして、以下の実行プランで「創造的国際学都」を目指して、聖域なき改革、組織に横串を通す改革を断行し、教育の国際化を推進した。

- ①学長直轄のプロジェクト方式で企画立案、実行を行う組織体制を構築する。学長・担当理事の下、自らの判断で動いて大学力を強化する実務家集団 5U を登用する（国際関連は、UGA/UAA/UPR が主に関与する）。
- ②国際センターをグローバル・パートナーズとして再編し、グローバル・リーチ、スタディー・アブロード部門、受入支援部門、国際企画・総務部門を設置する。各部署にリエゾン・オフィスを配置し、ワンストップサービスを実現する。

- ③教育の実質化と可視化を図る。教養教育改革を断行し、外国人教員を積極的に採用し、英語による授業を拡大する。地域・海外との協働によるグローバル実践型教育を推進する。
- ④国際的な学生の流動を促進するクォーター制を導入する。
- ⑤グローバル MP コースを設置して、英語のみで学位が取れるコースを設置、研究科への進学を促進する。医療工学大学院を設置し、医療機器・医薬品の開発に取り組む。
- ⑥領域横断的共同カリキュラムの構築、国際共同大学院の創設を目指す。
- ⑦国際バカロレア入試を全学導入し、渡日前入試、渡日前入学許可を拡大する。
- ⑧多様な国、地域から留学生を積極的に受け入れ、日本人学生の海外派遣を促進する。平成 32 年までに海外派遣を 6 倍、留学生受入を 4 倍にする。
- ⑨国際学生シェアハウスの自己資金による新設と、民間アパートの借上げにより、留学生と日本人学生の混住スペースを拡大する。ソーシャルラーニングスペースの拡充を行い、学修支援サポートを強化する。
- ⑩ 2 年以内に年俸制 25% 導入、10 年後には 50% 超えを実施し、優秀な外国人を年俸制で採用する。
- ⑪ 広報戦略本部を設置し情報発信力を強化する。外国人 UGA を年俸制で導入し、UPR とともに海外を飛び回って岡山大学を宣伝し優秀な学生のリクルートを行う。国際同窓会支部を増設し、広報活動の拠点とする。

【出典：スーパーグローバル大学創成支援事業構想調書(p. 45)

[http://www.jsps.go.jp/j-sgu/data/shinsa/h26/sgu\\_hoseigo\\_chousho\\_b09.pdf](http://www.jsps.go.jp/j-sgu/data/shinsa/h26/sgu_hoseigo_chousho_b09.pdf)】

この改革プランは、同年 9 月「スーパーグローバル大学創成支援事業」、同年 11 月「平成 26 年度国立大学改革強化推進事業」に採択された。

スーパーグローバル大学創成支援事業の計画概要及び平成 35 年までの目標は以下のとおりである。

■ (スーパーグローバル大学創成支援事業) 計画概要



■ (スーパージョーバル大学創成支援事業) 平成 35 年までの目標

OBJECTIVE 01

教職員に占める女性の比率  
(女性教員)

(女性教員/全専任教員)



OBJECTIVE 02

全学生に占める  
外国人留学生の割合

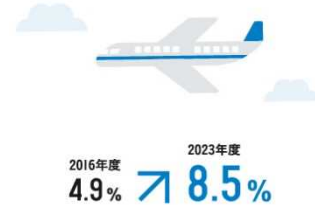
(外国人留学生数/全学生数)



OBJECTIVE 03

日本人学生に占める  
留学経験者の割合

(海外留学経験者数/学生数)



OBJECTIVE 04

外国語による  
授業科目数・割合

(外国語による授業科目数/英語による授業科目数)



OBJECTIVE 05

ナンバリング  
実施状況・割合

(ナンバリングを行っている授業科目数/全授業科目数)



OBJECTIVE 06

シラバスの  
英語化の状況・割合

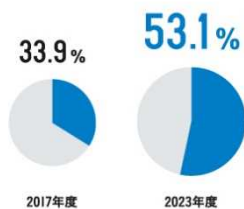
(シラバスを英語化している授業科目数/全授業科目数)



OBJECTIVE 07

年俸制の導入  
(教員)

(年俸制適用者(教員)数/全専任教員数)



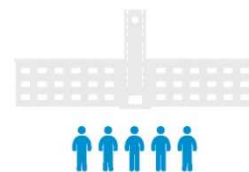
OBJECTIVE 08

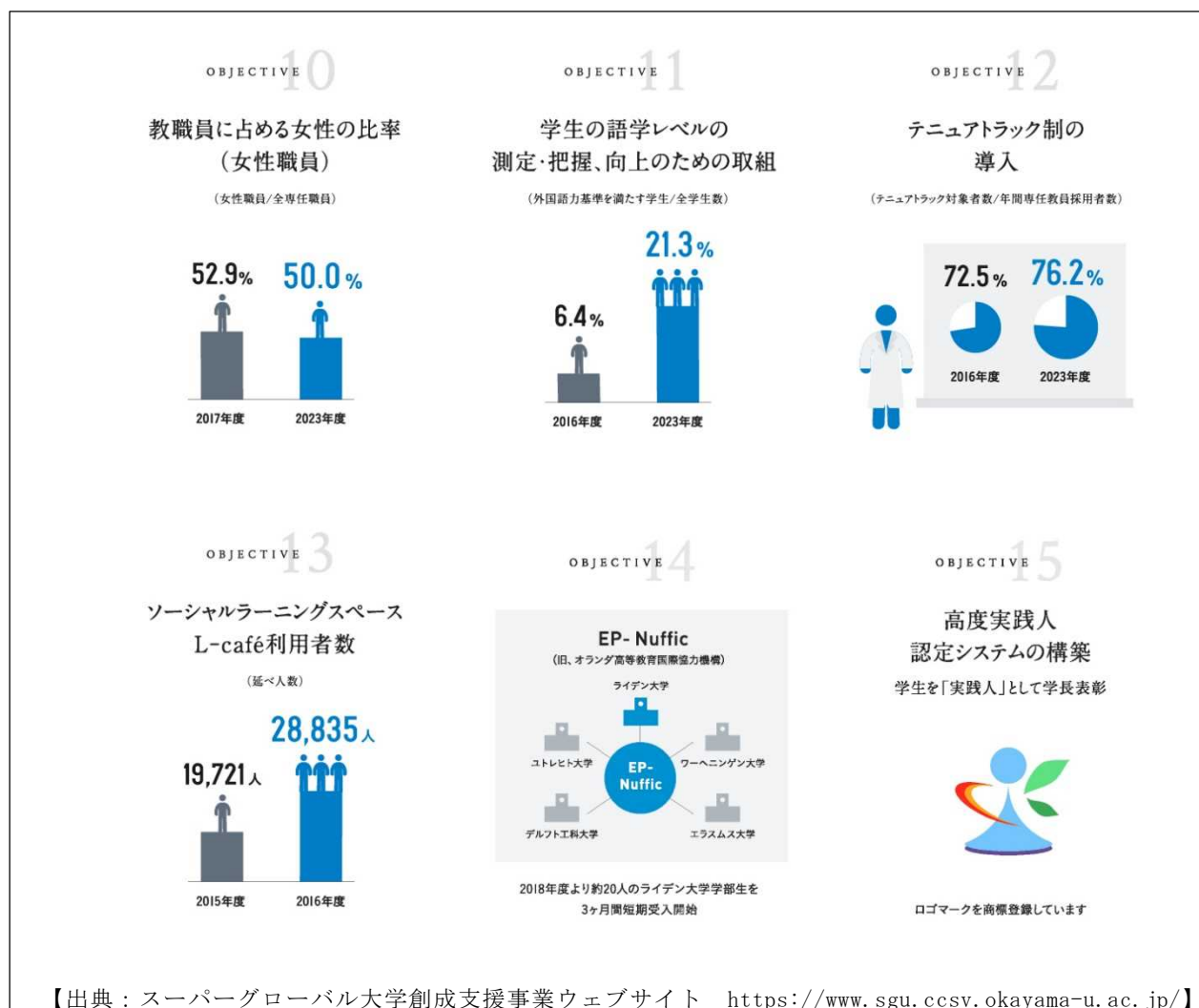
異文化交流  
体験率



OBJECTIVE 09

高度実践人数





これらの取組は、平成 26 年度末に第 2 期中期目標・中期計画（平成 22 年度～平成 27 年度）に「戦略性が高く意欲的な計画」として追記した。この計画を引き継ぐ形で、第 3 期中期目標・中期計画（平成 28 年度～平成 33 年度）でも「戦略性が高く意欲的な計画」を設け、また、その他の計画においても上述の計画や具体的方針を反映している<資料①-1><別紙資料：教育の国際化と中期目標・中期計画>。

なお、上記目的及び計画は、本学ウェブサイトにて広く社会に公表している。

<資料①-1>

中期目標・中期計画・年度計画 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/johokoukai\\_j.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/johokoukai_j.html)

【分析結果とその根拠理由】

大学の教育の国際化の目的と基本方針は、「岡山大学・国際戦略ビジョン 21」に示され、その基本方針はスーパーグローバル大学創成支援事業や国立大学改革強化推進事業において具体化されるとともに、達成するための計画が定められている。それらの目的や計画は、中期目標・中期計画にも記載されている。これらは、本学のウェブサイトにて広く社会に公開している。以上のことから、大学の教育の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針を定め、これらの目的と計画が広く公表されていると判断する。

観点C-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

### ○国際的な教育環境の構築について

#### 【観点到に係る状況】

国際的な教育活動を支援する全学的組織として、「グローバル・パートナーズ」を設置している<資料②-教-1>。また、ベトナム、中国、インド、ミャンマー、英国、米国、オランダの7カ国 10 拠点に海外拠点（うち事務員駐在：6 拠点）を設置している。海外協定校数は、大学間 156 件、部局間 151 件であり、ASEAN60 件、北米 41 件、欧州 60 件、中東 5 件等と幅広い国際交流を実現している<別紙資料：国際交流協定一覧>。国際的なネットワークとして、エラスムスプログラム、UMAP(アジア太平洋大学交流機構)に加盟しており、また、国立六大学（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学）で組織する国立六大学国際連携機構にて、ASEAN+3 UNet に加盟している<資料②-教-2>。

外国籍教員は 70 人（全専任教員の 4.7%）、海外での学位取得又は通算 1 年以上の教育研究活動経験を有する教員数は 506 人（全専任教員の 34.2%）、外国語ができる職員の配置状況は 48 人（全専任職員の 5.6%）である<資料②-教-3>。教員採用の公募要件に「外国語による講義ができる能力を有することが望ましい」を設け、「1 科目以上の外国語による講義の実施に努めること」を要請している。人事制度においては年俸制の導入を進めており、565 人（全専任教員の 38.2%）に適用している<資料②-教-4>。人事評価制度においても国際通用性に関する項目を設け、評価に反映している。

国際化を意識した FD として、英語で授業をするための教員研修等、種々のワークショップを開催し、岡山大学高等教育フォーラム（Facebook）で広く広報している。SD として、海外研修（平成 29 年度：4 人派遣）やオンラインによる英会話と集合型の講座を組み合わせた研修等を実施し、職員勤務評価項目に外国語検定の取得点数に応じ加点する仕組みを導入している。

国際通用性の高い教育課程として、平成 20 年度に GPA を採用し（平成 28 年度に GP 算出方法を見直した Functional GPA を導入）、平成 24 年よりマッチングプログラムコース（学士課程）において秋入学の導入、平成 27 年度にナンバリングの導入<資料②-教-5>、平成 28 年度に全学部で 60 分授業・4 学期制（クォーター制）の導入、シラバスの英語化 100%を達成している<資料②-教-6>。平成 29 年度には、海外生（30 人）と国内生（30 人）が、英語を共通言語として学ぶ学士課程プログラム「グローバル・ディスカバリー・プログラム」を開設した<資料②-教-7>。また、平成 30 年度に開設したヘルスシステム統合科学研究科では、海外の複数大学と連携に向けた協議を進めており、教育の国際化に向けた取組を着実に進めている。外国語による授業科目の実施は 930 科目（11.0%）<資料②-教-8>、外国語のみで卒業できるコースの数は 20 コース（24.1%）である<資料②-教-9>。平成 28 年度より世界と地域を繋ぐグローバル実践型教育を実施しており、教養教育では、受入留学生とともに日本人学生を関係企業に派遣する本学独自の企業体験型科目「国際インターンシップ」等、専門教育では各部局がそれぞれの専門性を活かした特色あるプログラムを展開している<資料②-教-10>。また、本学では、実社会で適切な判断をくだすことができる能力を持ち、世界で活躍できる「高度実践人」の認定を実施している<資料②-教-11>。

英語やその他言語コミュニケーション・スキルを主体的かつ積極的に伸ばす実践的な学びの場を学生に提供することを目的として、ソーシャルラーニングスペース「L-café」を設置している<資料②-教-12>。また、平成 28 年 3 月に整備した国際学生シェアハウスでは、日本人が外



国人と共に生活（日本人学生1人を含む4人が1つのユニットで生活）しており、日々の異文化体験と多文化理解の学びの場となっている。

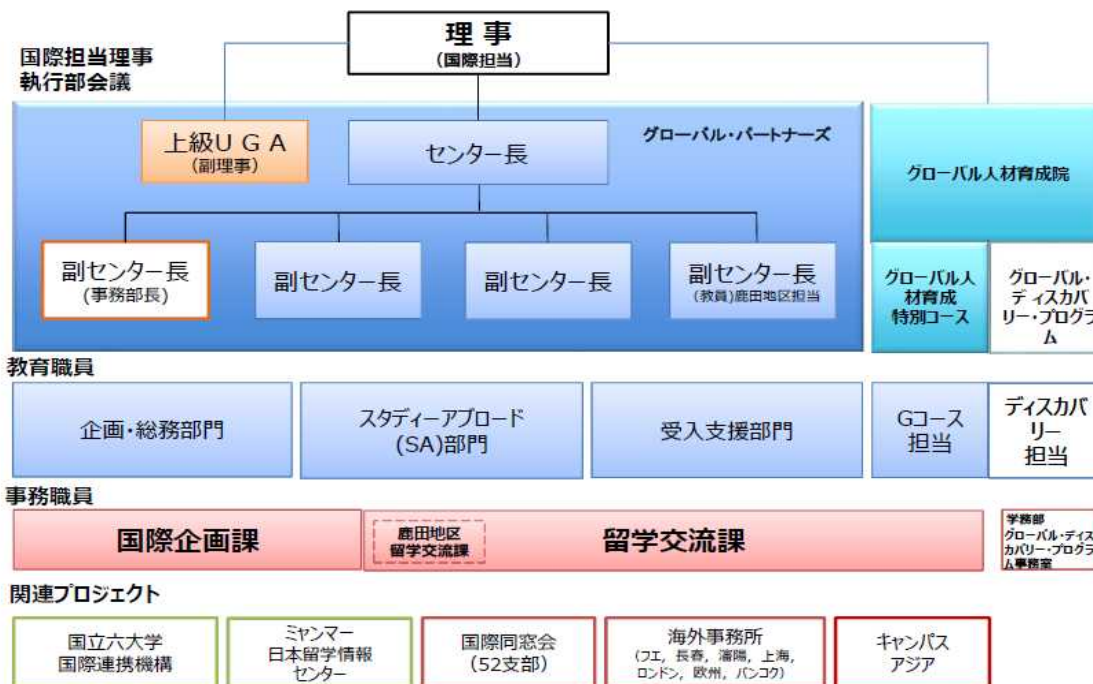
国際的な情報発信として、英語版HP等の拡充、海外向けウェブマガジンの発行、大学紹介リーフレット（英・中）等の作成に加え、海外拠点や交流校等海外ネットワークを活用した情報発信等を行っている<資料②-教-13>。また、海外有力大学との連携、国連やユネスコなどを通じた情報発信や、企業と連携した教育・研究の機能強化のために、SDGsを共通言語として本学の教育・研究活動の整理を進めている<資料②-教-14>。

<資料②-教-1>（出典：学内資料）

グローバル・パートナーズ

○役割：国際交流に関する支援活動及び留学生教育を通じて、本学の理念及び基本方針に沿った総合的な国際交流の推進に寄与することを目的とし、次の業務を行う。

- 一 国際交流に係る総合的推進計画の策定及び調査研究に関すること。
- 二 学術に関する国際交流の推進に関すること。
- 三 学生に関する国際交流の推進に関すること。
- 四 外国人留学生に対し、岡山大学短期留学プログラムに必要な教育を行うこと。
- 五 外国人留学生に対し、修学上及び生活上の指導助言を行うこと。
- 六 海外留学を希望する学生に対し、修学上及び生活上の指導助言を行うこと。
- 七 留学等予定者の受入手続及び渡日直後の支援に関すること。
- 八 留学生教育に係る調査研究に関すること。
- 九 地域との連携による国際交流事業の推進に関すること。
- 十 岡山大学国際同窓会に関すること。
- 十一 その他センターの目的を達成するため、必要な事項を処理すること。



## &lt;資料②-教-2&gt; (出典：学内資料)

エラスムス プログラム	エラスムス・ムンドゥス計画は、1987年に始まり、欧州の学生に出身国以外の欧州諸国で学ぶ機会を提供してきた「エラスムス計画」の世界版で、欧州の高等教育の質を高めることを目的とした高等教育分野における教育機関の連携と学生・研究者の交流を促進するための計画である。  BEAM プログラム(2009-2013)では、エコール・サントラル・パリ校を中心にした15機関が、EASED プログラム(2013-2017)では、同校を中心にした16機関がコンソーシアムを設立し、学生交流等を行った。  <a href="http://embeam.ccsv.okayama-u.ac.jp/">http://embeam.ccsv.okayama-u.ac.jp/</a>
UMAP (アジア太平洋大 学交流機構)	アジア太平洋域内の高等教育(大学)セクターを代表する政府及び非政府組織の代表からなる任意団体であり、大学の学生・教職員の国際交流を推進し、相互理解を深めることを目的としている。  <a href="http://www.janu.jp/international/files/umap-jasso-leaflets.pdf">http://www.janu.jp/international/files/umap-jasso-leaflets.pdf</a>
ASEAN+3 UNet	ASEAN諸国の大学で構成される国際大学連合のASEAN University Network (AUN)を核として日本・中国・韓国の3か国の大学を加えたネットワーク(ASEAN+3 University Network)である。  <a href="http://www.aunsec.org/membership.php">http://www.aunsec.org/membership.php</a>
国立六大学 国際連携機構	千葉大、新潟大、金沢大、岡山大、長崎大、熊本大の6大学による国際連携機構。医学分野での研究・学生交流や、医学以外の分野での共同セミナーをはじめ、日本とタイにおける双方向でのサマースクール、単位互換制度 ACTS への参加といった交流を展開している。平成25年4月、ASEAN University Network (AUN)とパートナーシップ協定を締結。また、平成27年9月、AUNを核として日本・中国・韓国の3か国の大学を加えたネットワーク ASEAN+3 University Network (ASEAN+3 UNet)に加盟した。さらに、平成28年3月3日、オランダの政府系独立機関 EP-Nuffic (旧オランダ高等教育国際協力機構)との包括協定を締結した。  <a href="http://sixers.jp/">http://sixers.jp/</a>

## &lt;資料②-教-3&gt; (出典：学内資料)

## 外国人教員等の配置状況

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	
	実績値					目標値	実績値
外国人教員等(A)	445 人	441 人	508 人	538 人	594 人	743 人	576 人
うち外国籍教員	59 人	57 人	57 人	59 人	67 人	118 人	70 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	47 人	45 人	43 人	41 人	59 人	113 人	58 人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	255 人	254 人	300 人	323 人	272 人	384 人	261 人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	84 人	85 人	108 人	115 人	196 人	128 人	187 人
全専任教員数(B)	1,517 人	1,526 人	1,523 人	1,507 人	1,523 人	1,590 人	1,479 人
割合(A/B)	29.3 %	28.9 %	33.4 %	35.7 %	39.0 %	46.7 %	38.9 %



## 外国語ができる職員の配置状況

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	
	実績値					目標値	実績値
外国人職員等(A)	21 人	30 人	33 人	36 人	38 人	49 人	48 人
うち外国籍職員	3 人	7 人	6 人	5 人	5 人	21 人	5 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人職員	4 人	4 人	7 人	7 人	7 人	9 人	11 人
うち外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員	14 人	19 人	20 人	24 人	26 人	19 人	32 人
全専任職員数(B)	737 人	766 人	825 人	848 人	853 人	772 人	854 人
割合(A/B)	2.8 %	3.9 %	4.0 %	4.2 %	4.5 %	6.3 %	5.6 %

<資料②-教-4> (出典：学内資料)

## 年俸制の導入状況

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	
	実績値					目標値	実績値
年俸制適用者(教員)数(A)	12 人	9 人	311 人	385 人	516 人	602 人	565 人
全専任教員数(B)	1,517 人	1,526 人	1,523 人	1,507 人	1,523 人	1,590 人	1,479 人
割合(A/B)	0.8 %	0.6 %	20.4 %	25.5 %	33.9 %	37.9 %	38.2 %

<資料②-教-5> (出典：学内資料)

## ナンバリングの実施状況

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	
	実績値					目標値	実績値
ナンバリングを行っている授業科目数(A)	0 科目	0 科目	7,555 科目	9,914 科目	11,364 科目	8,800 科目	10,782 科目
全授業科目数(D)	8,796 科目	8,920 科目	9,003 科目	9,914 科目	11,364 科目	8,800 科目	10,782 科目
割合(A/D)	0.0 %	0.0 %	83.9 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %

<資料②-教-6> (出典：学内資料)

## シラバスの英語化

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	
	実績値					目標値	実績値
シラバスを英語化している授業科目数(A)	858 科目	5,856 科目	8,212 科目	9,914 科目	11,364 科目	8,800 科目	10,782 科目
全授業科目数(D)	8,796 科目	8,920 科目	9,003 科目	9,914 科目	11,364 科目	8,800 科目	10,782 科目
割合(A/D)	9.8 %	65.7 %	91.2 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %

<資料②-教一7> (出典：岡山大学ウェブサイト)

グローバル・ディスカバリー・プログラム <https://discovery.okayama-u.ac.jp/jp/>

2017年10月、岡山大学の「グローバル・ディスカバリー・プログラム」がスタート。これは、世界中から集まる留学生、帰国生などと一緒に学ぶ国際プログラムです。学部・学科の枠にとられない、自由で実践的な学びを通してグローバルに活躍できる人材を育成します。

### 入試と入学の時期

2017年10月に実施するAO入試(ディスカバリー入試)を経て、2018年4月からの入学になります。

学位	学士(学術)
募集人員	60人(国際選考:30人,国内選考:30人)国際バカロレア入試(若干人)

### プログラムの特徴

#### <特徴1>「自分の学び」を実現するカリキュラム

履修アドバイザーと相談しながら、学ぶ意欲や関心、将来の目標とマッチした科目を選択し、履修プログラムを作成。学部や学科といった既存の枠組みにとられない自由な学びで、新しい時代を切り拓く力を育みます。

#### <特徴2> 徹底した言語教育

プログラムの共通言語は英語です。入学直後からレベルに合わせたアカデミック英語の授業が行われるので、着実に英語力が身につきます。母語が日本語ではない学生には、日本語集中プログラムがあります。

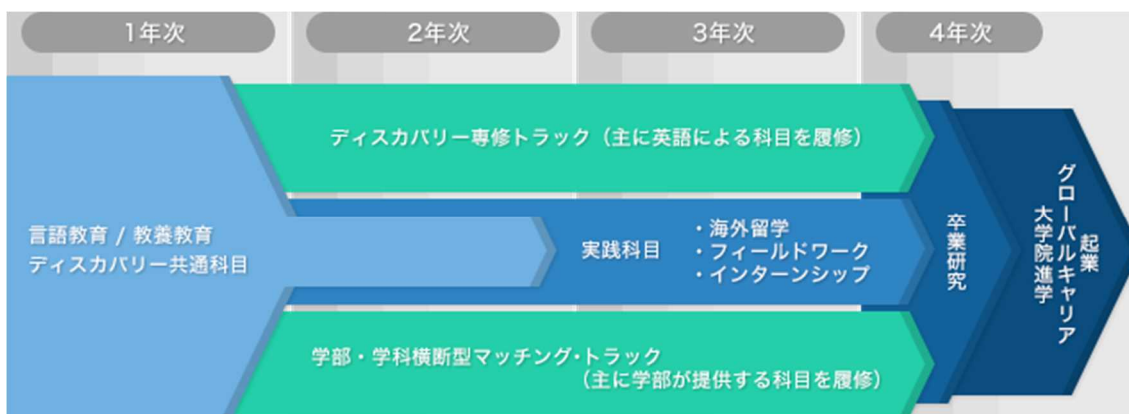
#### <特徴3> 学生同士の協働・学び合いを大切に

授業は、グループディスカッションやプレゼンテーションが中心。さまざまな文化背景や経験を持つ学生同士が協力し、学び合うことで、多文化への感性や課題発見力を高めます。

#### <特徴4> 実践知の重視

地域やNPO、企業などと連携し、フィールドワークやインターンシップを導入。大学の学びを活かし、実際に現場で課題解決の道筋を探ることで、社会で役立つ実践的な力を養います。グローバルな視野を育むために海外留学も推奨します。

## ○カリキュラム



学部・学科横断型マッチング・トラック

岡山大学の多彩な学部・学科が提供する科目群の中から、枠にとらわれないユニークな学びを自らデザインする。4年次には、自分の学びにマッチした学部・学科の教員の指導のもと、卒業研究を行う。

⇒学生自身のテーマや関心に応じて、学内の 11 学部が主に日本語で開講している科目を組み合わせ、独自の専門知識や技能を修得する。「ディスカバリー専修トラック」の提供科目を合わせて履修することも可能である。卒業研究は、履修アドバイザーと相談しながら、自分の学びに合った指導教員を決定し、その教員が所属する学部で研究に取り組む。

ディスカバリー専修トラック

英語による科目の履修を中心に卒業研究まで行う。社会的諸課題に取り組む3種類の履修モデル(クラスター)を用意している。文理融合型の履修も可能である。

⇒①持続可能性のための超域科学(農学・環境工学・天文学)、②社会イノベーションと起業(経済学・経営学・フィランソロピー学)、③文化的多様性とコミュニティ(社会学・人類学)の3つの分野(クラスター)を中心に英語での授業を受講する。主に2年次に履修する基本科目では、より専門性の高い課題科目を履修するために必要な基礎知識や方法論に関する授業を展開している。3・4年次に履修する課題科目では、クラスター別のテーマに沿って、卒業研究に必要な専門知識を修得する。

▼持続可能性のための超域科学(農学・環境工学・天文学)クラスター

▼社会イノベーションと起業(経済学・経営学・フィランソロピー学)クラスター

▼文化的多様性とコミュニティ(社会学・人類学)クラスター

<資料②-教-8> (出典:学内資料)

外国語による授業科目数・割合

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	
	実績値				目標値	実績値
外国語による授業科目数(A)	200 科目	225 科目	272 科目	486 科目	517 科目	930 科目
うち学部(B)	36 科目	35 科目	38 科目	232 科目	183 科目	217 科目
うち大学院(C)	164 科目	190 科目	234 科目	254 科目	333 科目	713 科目
全授業科目数(E)	8,057 科目	7,810 科目	7,891 科目	8,302 科目	8,100 科目	8,428 科目
うち学部(F)	4,469 科目	4,514 科目	4,226 科目	4,592 科目	4,400 科目	4,633 科目
うち大学院(G)	3,588 科目	3,296 科目	3,665 科目	3,710 科目	3,700 科目	3,795 科目
割合(A/E)	2.5 %	2.9 %	3.4 %	5.9 %	6.4 %	11.0 %

<資料②-教-9> (出典：学内資料)

外国語のみで卒業できるコースの数等

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	
	実績値					目標値	実績値
外国語のみで卒業できるコースの設置数(A)	12 コース	15 コース	17 コース	19 コース	19 コース	29 コース	20 コース
うち学部(B)	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	0 コース	3 コース	1 コース
うち大学院(C)	12 コース	15 コース	17 コース	19 コース	19 コース	26 コース	19 コース
全学位コースの設置数(D)	68 コース	72 コース	78 コース	80 コース	80 コース	92 コース	83 コース
うち学部(E)	15 コース	15 コース	15 コース	15 コース	15 コース	20 コース	16 コース
うち大学院(F)	53 コース	57 コース	63 コース	65 コース	65 コース	72 コース	67 コース
割合(A/D)	17.6 %	20.8 %	21.8 %	23.8 %	23.8 %	31.5 %	24.1 %
外国語のみで卒業できるコースの在籍者数(G)	126 人	138 人	133 人	149 人	212 人	297 人	295 人
うち学部(H)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	80 人	62 人
うち大学院(I)	126 人	138 人	133 人	149 人	212 人	217 人	233 人
全学生数(J)	13,487 人	13,400 人	13,465 人	13,432 人	13,499 人	13,900 人	13,485 人
うち学部(K)	10,415 人	10,349 人	10,383 人	10,338 人	10,409 人	10,567 人	10,399 人
うち大学院(L)	3,072 人	3,051 人	3,082 人	3,094 人	3,090 人	3,333 人	3,086 人
割合(G/J)	0.9 %	1.0 %	1.0 %	1.1 %	1.6 %	2.1 %	2.2 %

<資料②-教-10> (出典：学内資料)

グローバル実践型教育

## 多彩なグローバル実践型教育



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY

---

地域とともに世界と繋がるグローバル実践型(社会連携)教育の全学展開  
：大学と地域・企業・国際社会との互恵性を生む取組

【平成29年度実績】  
 教養教育：18科目・287人が履修  
 専門教育：35プログラム・374人が留学

- 国際インターンシップ (Co-opプログラム)  
 要入習学生とともに、  
 日本人学生を関係企業に派遣する本学独自の企業体験型科目
- 医学研究インターンシップ  
 海外の研究室でメンバーの一員として研究に参加
- 海外短期農業体験実習  
 グアム・ベトナム・タイにおける農場実習を通して課題発見と解決を図る
- 環境ものづくり国際インターンシップ  
 日系企業のグローバル戦略と環境ものづくりを学ぶ



「国際インターンシップ」での林業体験



環境ものづくり国際インターンシップでのアメリカ・オレゴン州ゼラム市長表敬訪問



文 教 法 経 理 教養  
医 歯 薬 工 環 農



医学研究インターンシップ

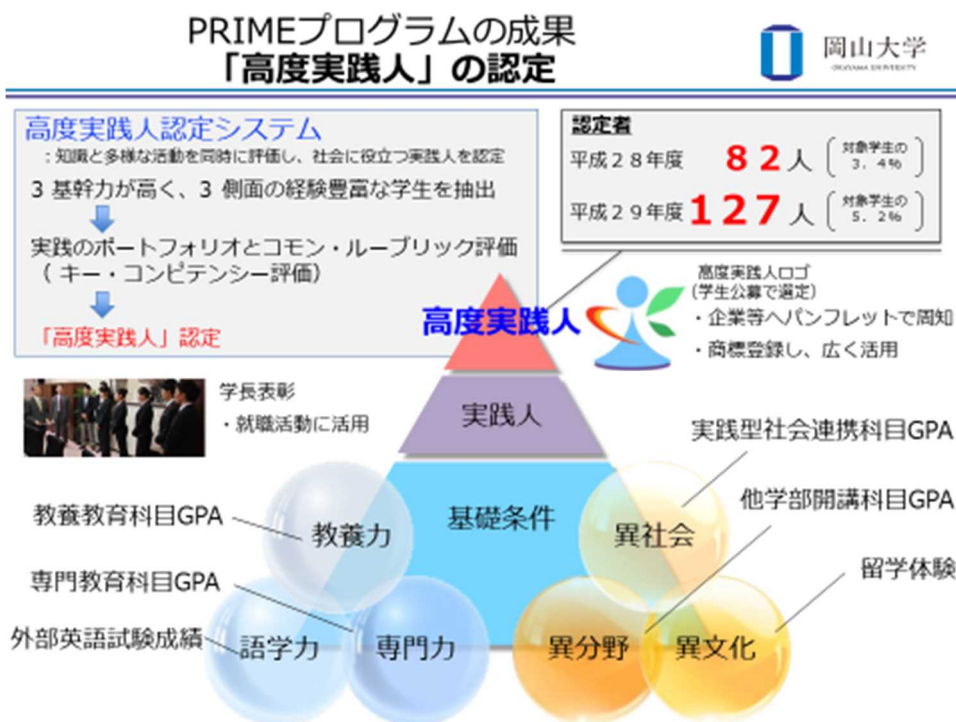


インド・コルカタでの旅行医学調査

準備学習
現場実践
互恵性

<資料②-教-11> (出典：学内資料)

「高度実践人」の認定について



<資料②-教-12> (出典：岡山大学ウェブサイト)

L-café について <https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/lcafe/page-2/page-3/>



L-caféは、学生同士が自由に交流して、多言語・多文化への理解を深めることができる主体的な学びの場です。

「授業以外でも、もっと外国語を学びたい!」「留学生との交流を通して多文化コミュニケーション能力を高めたい!」という学生たちが、フレンドリーな雰囲気の中で学ぶ楽しさ・喜びを体験しています。英語に自信がなくても大丈夫!まずは、気軽に立ち寄ってみてください。

<資料②-教-13> (出典：岡山大学ウェブサイト)

国際的な情報発信について


- ・英語版 HP : [http://www.okayama-u.ac.jp/index\\_e.html](http://www.okayama-u.ac.jp/index_e.html)
- ・大学概要 (英語) : [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/prospectus\\_en.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/prospectus_en.html)
- ・海外向け web マガジン (英語) : <http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/ebulletin/>
- ・リーフレット (英語・中国語) : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/leaflet.html>




<資料②-教-14> (出典：学内資料)

2017年岡山大学のSDGs活動実績

## 国際化を牽引した2017年度岡山大学SDGs活動



岡山大学  
OGAWA UNIVERSITY



5月 10月 11月 12月

**5月**

国連広報センター・国連大学サステイナブルイノベーション高等研究所を訪問。横野学長と意見交換

**8月**

岡山経済同友会講演会にて、横野学長が本学のSDGs推進を説明

**9月**

日本学術会議 若手アカデミー共催 SDGsシンポジウム

**10月**

SDGs学内特別講演会 (講師：国連開発計画 中井 淳子氏)

**11月**

ユネスコ本部 (私) にて、ユネスコ/日本ESD賞授与式 (林文部科学大臣と横野学長)

**12月**

SDGsの達成に向けたRCE第一回世界会議 第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を授賞 (横野学長が受賞)

<SDGs活動成果物> →

**SDGsに関する岡山大学の行動指針**

岡山大学は、その使命・目的の下、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に貢献する活動に取り組む。持続可能な社会の実現を牽引していく。

(SDGsに貢献する岡山大学の活動の取組事例)

- 1 人間社会の持続可能な発展を促すSDGsを達成することは、岡山大学の使命である「高度な知的創造と知識の伝達」のもと、岡山大学が掲げる「人類社会の持続可能な発展のためのイノベーション」に資するものである。
- 2 ユネスコが推進するESDを推進して社会岡山大学は、岡山大学が国際社会の一員としてSDGsを推進していく活動と密接である。
- 3 SDGsを達成するための国際社会として岡山大学は、持続可能な開発目標について、SDGsの達成に貢献することで、持続可能な社会の実現を牽引する。

**SDGsの達成に向けた岡山大学の取組事例集**

1. 持続可能な開発目標 (SDGs) の概要  
2. 岡山大学のSDGs取組事例  
3. 岡山大学のSDGs取組事例集

**SDSNオーストラリア「大学におけるSDGs推進ガイド」(翻訳)**

UNIVERSITY OF TOKYO  
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
2018年10月

**Japan, Committed to SDGs**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS × 岡山大学**

2018年10月

## 世界・地域とのパートナーシップ強化へ

2018.1.20 @東京



**第1回ジャパンSDGsアワード報告会**

日本政府がSDGs達成に資する優れた取組みを行っている企業・団体等を選定し、表彰するジャパンSDGsアワードを受賞した全12団体が一堂に揃った報告会で、横野学長が講演。

2018.2.28 @岡山



**岡山大学SDGs推進本部設置**

岡山大学のSDGs達成の観点を取り入れた大学運営を進めるとともに、地域及び国際社会とのより一体的なパートナーシップ構築のための取組みを推進することを目的として、岡山大学SDGs推進本部設置。

2018.3.22 @ドイツ・ボン



**持続可能な開発のためのグローバル・フェスティバル・オブ・アクション**

第2回目となる国連主催のSDGs世界会議で、横井国際担当副理事がこれまでの岡山大学におけるSDGsの取組みとともに岡山から世界に向けてSDGsを強く先導していくメッセージを発信。

2018.3.29 @倉敷



**みずしま滞在型環境学習コンソーシアムキックオフシンポジウム**

横野学長が、地域の課題がグローバル・イノベーションに直結する、地域循環型の社会課題解決サイクルの重要性を提起し、コンソーシアムへの期待を表明。



**Japan, Committed to SDGs**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS × 岡山大学**



**【UN Web TV : 当日の動画を掲載】**

<http://webtv.un.org/search/japans-sdgs-award-sdg-studio-global-festival-of-action-for-sustainable-development-2018-/5756362455001/?term=&lan=english&page=2>



## ○外国人学生の受入について

### 【観点に係る状況】

#### ①外国人学生の受入実績

本学では、外国人学生の受入のために多様なプログラムを実施している<別紙資料：主な教育プログラム一覧>。平成 29 年度に開設したグローバル・ディスカバリー・プログラムは、平成 29 年 10 月に第 1 期生 31 人が 16 カ国より入学した。正規受入留学生促進プログラムとして、平成 26 年度より大学院予備教育特別コースを開設し、海外の大学での学士課程卒業者を対象に日本語予備教育を実施し、留学生の本学大学院への入学者増に繋げている。正規大学院留学生転入学プログラムとして岡山大学・フェ大学院特別コースを、大学院でのダブル・ディグリー制度として岡山大学-中国東北部大学院留学交流プログラム(O-NECUS : Okayama University-North East China Universities platform, ‘Graduate’ Student Exchange Program)などを実施している。また、20 年近くの実績がある大学間協定に基づく交換留学制度である岡山大学短期留学プログラム(EPOK : Exchange Program Okayam)では、新規協定校の開拓を行い、制度を充実化させている。また、キャンパスアジアプログラム(CA)、O-NECUS、エラスムス・ムンドゥス計画でも、単位互換を伴う短期留学生及び研究留学生の受入を行っており、さらに、サマースクール・スプリングスクールやさくらサイエンスプログラムなどの超短期受入プログラムを毎年開催している。これらの取組により、外国人学生の受入実績は着実に増加している<別紙様式：外国人学生受入・国内学生海外派遣実績票>。

#### ②外国人学生に対する各種支援

ホームページの英語化をはじめ、学内主要看板(91カ所)の英語表示や各種通知書・申請書等の英語化<別紙資料：英語化している各種通知書・申請書等>を実施している。学内では、各種支援組織を設置・整備し、渡日直後の学内外での事務手続の支援のほか、日本語学習を含む教育・研究上の個別指導、日常生活での困り事の相談、メンタルヘルスを含むカウンセリングの実施など留学生のニーズに沿ったサポートを行う体制を整えている[表②-外-1]。外国人学生等向けの日本語・日本文化教育として全学日本語コース等のプログラム<資料②-外-1>を開講している。留学生向け宿舎として、平成 28 年度に開設した日本人学生と共住の国際学生シェアハウスをはじめとする 4 施設(189 室・30 ユニット/定員 309 人)を有しており<資料②-外-2>、不足分には近隣の借り上げ宿舎を用意している。経済的な支援を必要とする外国人学生には応募可能な各種奨学金を紹介するとともに、文部科学省外国人留学生学習奨励費給付予約制度を活用できるよう全研究科(法務研究科は除く)で海外特別入試や渡日前入学許可等の特別入試制度を構築している<資料②-外-3>。就職支援として、教養科目「留学生のための就職活動Ⅰ・Ⅱ」<別紙資料：[シラバス]留学生のための就職活動>を開講しており、個別相談にも応じている。また、大学主催の就職支援行事の告知に加え、自治体等が実施する就職説明会等の開催情報を収集し、留学生に直接メールにて情報提供している。世界 52 カ所に設立した国際同窓会支部・通信拠点では、本学の国際活動への貢献に加えて、受入留学生の紹介や、帰国後の就職活動支援に関する活動も行っている。地域との交流活動の場としては、留学生のまちづくり事業<資料②-外-4>等を実施している。

[表②-外-1] (出典：学内資料)

外国人学生に対して実施している各種支援内容等

支援組織名	支援内容	設置主体
L-café	多言語での交流、情報交換、学習支援、イベントなど <a href="https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/lcafe/page-2/">https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/lcafe/page-2/</a>	全学教育・学生支援機構
留学生相談室	各種カウンセリングの実施<別紙資料：カウンセリングの実施状況：留学生相談室 活動報告書>	グローバル・パートナーズ
留学生支援ボランティア WAWA	留学生の要望により、日本語学習支援、日常生活での手助け、異文化交流イベントなど <a href="https://www.facebook.com/wawa.okadai/">https://www.facebook.com/wawa.okadai/</a>	グローバル・パートナーズ
学生ヘルプデスク	渡日直後の事務手続き支援及び日常の生活での困りごと相談	グローバル・パートナーズ
チューター	渡日直後及び日常での生活支援及び教育・研究上の個別指導など	各局部
EPOK バディ	EPOK 交換留学生の学習・生活支援	グローバル・パートナーズ
レジデント・アシスタント	共住する留学生宿舎での生活支援	グローバル・パートナーズ
メディフォン	留学生のメンタルヘルスケア	安全衛生推進機構

### ③外国人学生の受入促進のための取組の実施状況

平成 24 年度入試より国立大学で初めて導入した国際バカロレア入試は、秋入学にも対応し、平成 27 年度入試より全学部全学科に展開の上実施している<別紙資料：国際バカロレア入試>。特に、医学部医学科では、定員 5 人を明示して実施している。また、海外拠点を活用した入試説明会の実施や渡日前入試（面接）等を拡大しており、平成 28 年度には、全研究科（法務研究科を除く）で外国人学生を受け入れる制度を構築している。さらに、グローバル・ディスカバリー・プログラムでは一般入試に加え、実績評価型の A0 入試を導入している<別紙資料：ディスカバリー入試>。その他、NAFSA（北米を拠点とする国際教育交流団体）、APAIE（アジア太平洋地域の国際教育交流団体）、EAIE（欧州の国際教育交流団体）をはじめとする諸外国での留学フェア参加、海外の高校訪問の実施、留学生向け大学紹介ムービーの作成等を行っている<資料②-外-5>。また、平成 26 年に文部科学省「留学コーディネーター配置事業（ミャンマー）」に採択され、ミャンマーでの日本留学フェアを主催する等している。平成 28 年 3 月には三菱商事と本学が共同代表の「ミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォーム」を設立し、日本におけるミャンマー人材育成支援のための活動を進めている<資料②-外-6>。



<資料②-外-1> (出典：岡山大学ウェブサイト)

日本語プログラム <http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/courses/index.html>

全学日本語コース	岡山大学の留学生なら誰でも受講可能。
日本語研修コース	日本語研修コースは、6ヶ月間集中的に日本語・日本事情を学ぶ、国費留学生を対象とした予備教育。大学院などで研究生生活をおくるために必要な日本語運用能力と社会文化的知識を身につけることを目的としている。
日韓共同理工系留学生事業予備教育	平成10年の日韓共同宣言に基づき創設され、平成12年に開始された高校を卒業した韓国入学生を日本の国立大学の理工系学部へ招致し、日本の大学の学部生として4年間学ばせる事業。
日本語・日本文化研修留学生プログラム	日本政府（文部科学省）の奨学金により、日本語能力および日本事情、日本文化の理解の向上のために留学する外国の大学に籍をおく外国人学部生を毎年10月から1年間受け入れ。

<資料②-外-2> (出典：岡山大学ウェブサイト)

留学生宿泊施設（4施設）

[https://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/interstudents/students\\_current/3-05house\\_jpn.html](https://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/interstudents/students_current/3-05house_jpn.html)

① 桑の木留学生宿舎

宿舎区分	住居区分	性別	室数	面積	階別
北棟	留学生単身用（混住型）	男・女	50	14.4m <sup>2</sup>	1～3階
南棟	*各階、日本人RA居住		100	19.5m <sup>2</sup>	1～5階

② 福居留学生宿舎

住居区分	性別	室数	面積	階別
留学生単身用	男・女	21	22m <sup>2</sup>	1～3階

③ 国際交流会館

住居区分	性別	室数	面積	階別
留学生単身用	男・女	18	17.5m <sup>2</sup>	1～3階

④ 国際学生シェアハウス（平成28年3月完成）

住居区分	性別	室数	面積	階別
留学生単身用（混住型）	男・女	30ユニット *各ユニット4人 基本構成 日本人1人、外国人留学生3人	LDK 29.6m <sup>2</sup> 個室 7.9m <sup>2</sup>	1～5階

<資料②-外-3> (出典：学内資料)

外国人学生に対する経済的支援の実績等

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	
	実績値				目標値	実績値
外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数(A)	43人	116人	143人	122人	77人	92人
奨学金を取得した外国人留学生数(B)	185人	215人	354人	428人	205人	302人
割合(A/B)	23.2%	54.0%	40.4%	28.5%	37.6%	30.5%

<資料②-外-4> (出典：岡山大学ウェブサイト)

留学生のまちづくり事業 [https://agora.okayama-u.ac.jp/practice/ryugakusei\\_machizukuri/](https://agora.okayama-u.ac.jp/practice/ryugakusei_machizukuri/)

留学生のまちづくり事業は、留学生が岡山のまちづくりを経験し、岡山が好きになることで岡山の友好親善大使となることを目的とした大学と地域の協働事業である。本事業では矢掛町江良地区を活動拠点とし、田植えやホームステイなど様々な活動に留学生が訪れ、大学と地域間の交流を深めている。

<平成 29 年度の活動>

イベント内容	関係者	開催日	留学生数
三徳山御幸行列三朝温泉大回り	三朝町	4/28-30	11
ホームステイ①	矢掛町	7/15-16	10
秋祭り	矢掛町	10/9	10
ホームステイ②	矢掛町	11/11-12	8

<資料②-外-5> (出典：岡山大学ウェブサイト)

留学生向け大学紹介ムービー等

- ・リーフレット (英語・中国語) : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/leaflet.html>



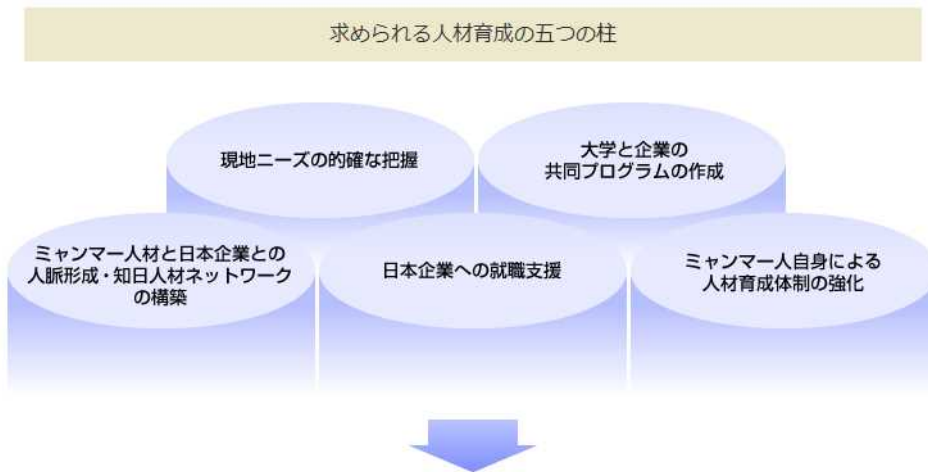
※リーフレット(英語)

- ・大学紹介ムービー (英語) : <https://www.youtube.com/watch?v=7cX1ttQIk3E>
- ・大学紹介ムービー (中国語) : [https://www.youtube.com/watch?v=kfzDXM\\_0j\\_Q](https://www.youtube.com/watch?v=kfzDXM_0j_Q)

<資料②-外-6> (出典：ミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォームウェブサイト)  
ミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォーム <http://mjpf.jp/>

### オールジャパン体制で産学官連携の枠組みを構築

ミャンマーにおける人材育成を進めるとともに、両国の交流の促進や更なる発展につなげる



### ぶらっとフォームの設立

#### 目的

日本・ミャンマー間の国際関係の発展に資するため、日本の大学等への留学及び日本企業への就職の促進等を通じたミャンマー高度人材育成支援のための産学官連携協力の枠組みを形成し、情報共有及び情報発信を行うとともに共同事業を創出する。

#### 活動

産学官の連携による情報共有と発信、共同事業、その他ミャンマー人材育成支援のための活動

## ○国内学生の海外派遣について

### 【観点に係る状況】

全学的な海外派遣としては、岡山大学短期留学プログラム(EPOK)、キャンパスアジア、語学研修・サマー／スプリングスクール等を実施している<別紙資料：主な教育プログラム一覧>。例えば、語学研修・サマー／スプリングスクールへの参加者数は平成25年に112人(うち1年生68人)だったものが、平成29年には268人(うち1年生140人)となった<資料②-派-1>。1年生を中心に増えていることから、グローバル教育の入り口としての効果を得ている。

海外派遣者数の増加と教育効果の向上のために、段階的な外国語や異文化理解の学習が可能な教育システムを構築している。海外派遣には外国語能力が欠かせなく、また、ReadingやListeningのほか、SpeakingやWritingも加えた4技能が必要となる。その養成のために、例えば、学部横断のグローバル人材育成特別コース(Gコース)<資料②-派-2>を提供し、学生は英語力養成プログラム(SPAcE)によって、留学に必要な英語力を身に付けている。Gコースの定員は当初50人であったが、平成28年度より100人へ拡大し、全学的な取組となっている。理系学生も参加しやすいように、大学院進学後も継続できる仕組みとなっている。Gコースは、全ての学士課程の部局から学生の履修があり<資料②-派-3>、岡山大学グローバル教育の要として、海外派遣の増加へとつながっている。例えば、岡山大学短期留学プログラム(EPOK)では、Gコース生が派遣される割合が高まってきている<資料②-派-4>。

短期留学を中心に、各学部・研究科での海外派遣の取組も充実してきている。海外で修得した単位等の認定基準として、欧州及びアジア諸国の共通単位互換制度であるECTS及びUCTSとの単位換算に関する全学の指針<別紙資料：本学学生が留学先で修得した単位の認定に関するガイドライン>を定め、これに沿って各学部・研究科において単位認定が行われている。また、平成28年度の4学期制導入にあわせて必修科目を開講しない学期を設け、学生が留学しやすい体制を整えた。

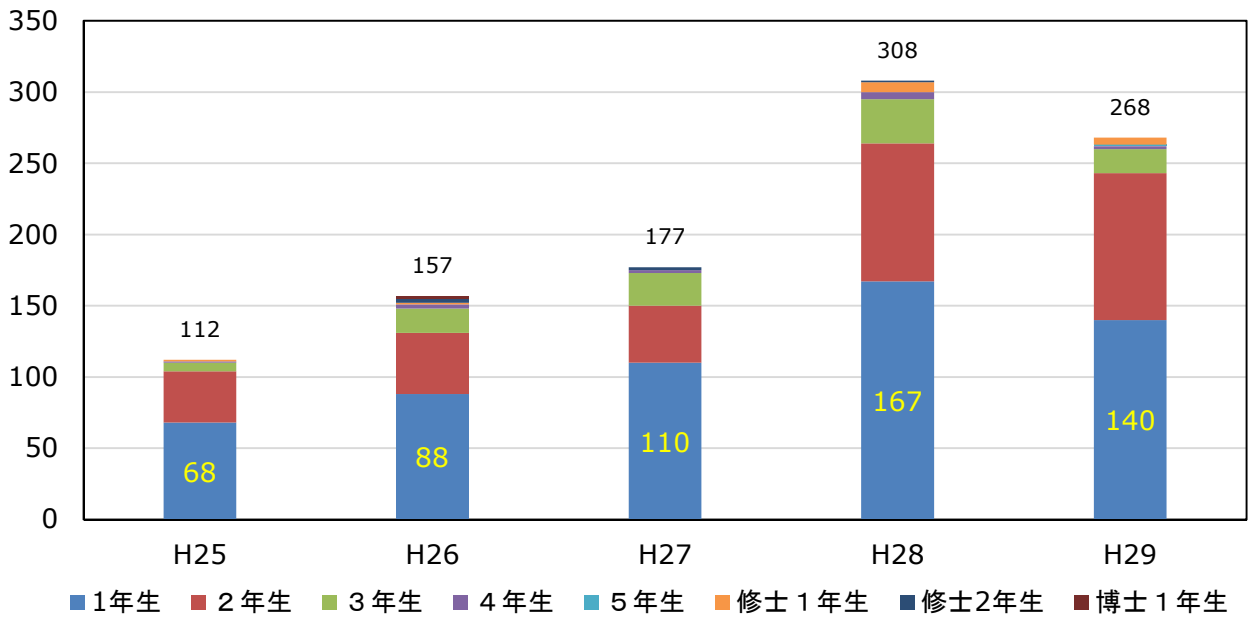
高度な専門性のある国際活動も推進している。例えば、世界196ヶ国から各国を代表する次世代リーダーたち(18~30歳)が一堂に会する世界ユースサミット(One Young World)へ、平成27年度より参加費を大学が支援する形で学生を派遣している(各年度2人程度)<資料②-派-5>。

本学は留学説明会等による情報提供<資料②-派-6>に加え、留学に関する事前サポートや個別相談なども充実させてきた。海外留学ガイダンスにおいては、渡航準備、渡航中の学習・生活サポート、帰国後のフォローアップと3段階に分けた指導を実施している<別紙資料：[シラバス]海外留学ガイダンス>。IELTSやTOEFLの対策講座など英語力検定試験受験へのサポートも行っている<資料②-派-7>。留学生との交流により実践的な英語力の向上ができるL-caféでは、留学を控えた学生が交換留学生から現地情報を得ることができる。経済的な支援としては、大学独自の支援事業に加え、各種奨学金の紹介・申請支援等を行っており、平成30年度からは、留学等の国際的な活動に優れ、学業優秀な学生(学部4年生、大学院生)に金光賞という表彰制度も始めている<資料②-派-8>。

これらの施策の結果、海外派遣者数は着実に増加している<別紙様式：外国人学生受入・国内学生海外派遣実績票>。今後は大学院生の海外活動の活発化と従来も行ってきた研究活動の一環としての海外経験のサポートを行っていく。

<資料②-派-1> (出典：学内資料)

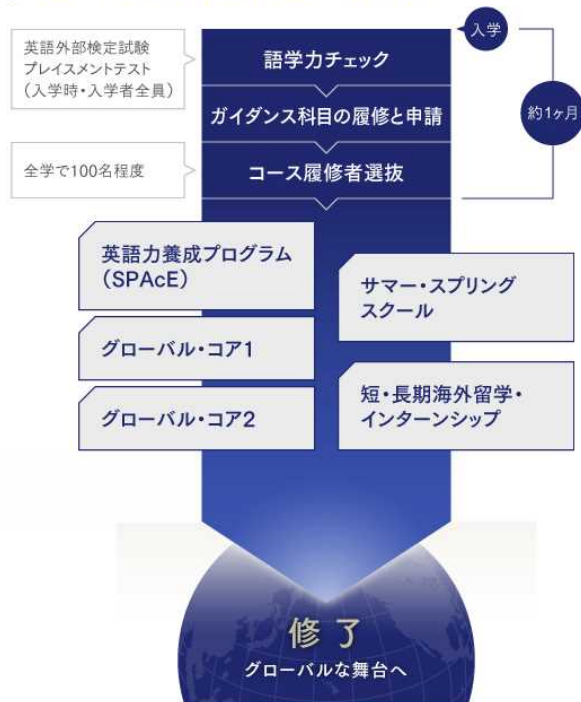
語学研修・サマー／スプリングスクールへの参加者数推移



<資料②-派-2> (出典：岡山大学ウェブサイト)

グローバル人材育成特別コース <http://global.okayama-u.ac.jp/>

|| グローバル人材育成特別コースの流れ



|| コース内容紹介

※ 英語力養成プログラム (SPAcE)

留学に向けて総合的な英語力強化、ネイティブ教員による習熟度別指導、TOEFL・IELTS試験対策、アカデミック・ライティング、英語プレゼン能力開発

※ グローバル・コア1

コミュニケーション開発、異文化理解、日本文化理解、瀬戸内の自然環境・地域の産業

※ グローバル・コア2

英語による専門教育 (グローバル・スタディズ)

※ サマー・スプリングスクール

約1~5週間の海外短期研修 (北米・欧州・東南アジア・オセアニア)

※ 短・長期海外留学・インターンシップ

海外等における専門教育科目の修得とグローバルリーダーシップの育成 ※学部によって留学時期・期間は異なります。

<資料②-派-3> (出典：学内資料)

グローバル人材育成特別コースの所属部局別人数・構成比と年度履修者推移

所属部局	総履修者 (平成29年度末時点)		総修了者数 (平成29年度末時点)	年度別履修者数				
	人数	構成比		平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
文学部	57	13.8%	9	6	8	9	18	16
教育学部	15	3.6%	2	4	3	2	3	3
法学部	72	17.4%	10	12	9	18	15	18
経済学部	55	13.3%	7	6	6	16	9	18
理学部	15	3.6%	0	1	1	2	3	8
医学部医学科	59	14.3%	0	11	7	12	16	13
医学部保健学科	15	3.6%	2	0	2	2	5	6
歯学部	13	3.1%	0	0	5	5	3	0
薬学部	7	1.7%	0	2	0	2	1	2
工学部	45	10.9%	4	6	5	8	12	14
環境理工学部	22	5.3%	1	1	4	4	10	3
農学部	20	4.8%	0	3	4	4	3	6
マッチングプログラム	19	4.6%	3	3	4	5	2	5
合 計	414	100%	38	55	58	89	100	112

<資料②-派-4> (出典：学内資料)

岡山大学短期留学プログラム (EPOK) におけるグローバル人材育成特別コース所属学生の割合

	応募者数			派遣者数		
	全体	うちGコース生		全体	うちGコース生	
H26	38	19	50.0%	35	18	51.4%
H27	47	25	53.2%	38	18	47.4%
H28	53	32	60.4%	42	24	57.1%
H29	47	29	61.7%	40	25	62.5%

## &lt;資料②-派-5&gt; (出典:岡山大学ウェブサイト)

世界ユースサミット <http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/international/OYW>

2009年の世界経済フォーラム「通称ダボス会議」(World Economic Forum、本部:スイス・ジュネーブ)において宣言され、年に一度、世界196ヶ国から各国を代表する次世代の若いリーダーたち(18~30歳)が一堂に会する世界最大級のサミット。本学代表として派遣する学生に対し、参加支援費用(参加・登録費、宿泊費、食費等)及びサミット開催地への往復渡航費を大学が支給している。

年度	開催地	期間	派遣人数
27	タイ王国・バンコク	11月18日~21日	2
28	カナダ・オタワ	9月28日~10月1日	2
29	コロンビア・ボゴタ	10月4日~10月7日	2

## &lt;資料②-派-6&gt; (出典:学内資料)

## ・留学説明会等の実績(H27-29)

年度	開催日	参加者数	備考	年度	開催日	参加者数	備考
H27	4/22	82		H28	11/22-12/2	12	帰国報告会
	5/13	40	EPOK		11/28	5	
	6/24	41	EPOK	H29	4/26	62	
	10/30	42	帰国報告会		5/24	25	
H28	4/11-12	125			6/28	40	EPOK
	5/20	2			10/4	5	EPOK
	10/17	2		10/27	1		
	10/18-19	18	EPOK	11/6-8	52	帰国報告会	
	11/10-11	22	EPOK				

※留学説明会、帰国報告会、先輩学生体験談等の動画配信も行っている。

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/students/haken/video.html>

## ・留学相談室

留学に関する相談を何でも受け付けている。留学に関する初歩的なことから、悩ましい留学諸手続きに至るまで、留学経験者が相談に乗っている。

[http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/students/haken/students\\_advisorycenter\\_jpn.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/students/haken/students_advisorycenter_jpn.html)

## ・海外留学のススメ

各種留学プログラムや留学に関連する情報(語学力・奨学金等)等についてまとめた「冊子」、「三つ折りパンフレット」、「リーフレット」を作成・配布している。

(冊子)[http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/up\\_load\\_files/pdf/H30\\_susume\\_book.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/up_load_files/pdf/H30_susume_book.pdf)

(三つ折り)[http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/up\\_load\\_files/pdf/H30\\_susume\\_pamphlet.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/up_load_files/pdf/H30_susume_pamphlet.pdf)

(リーフレット)[http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/up\\_load\\_files/pdf/H30\\_susume\\_insei.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/up_load_files/pdf/H30_susume_insei.pdf)



## 留学体験学生の声

**語学研修**  
 西村 文 (工学部2年 専攻理学専攻)  
 研修先: 米国(カリフォルニア州) 英語: マットキ  
 私は英語に留学準備や不安はあっても、「海外に行きたい!」という気持ちと併せて、留学準備に専念しました。英語に専念して、毎日楽しく過ごすことができました。また、マツキ大学の学生が活躍する中で、彼らから多くの刺激をもらいました。この研修で得られた刺激が、私の英語力や自信に大きな影響を与えています。

**EPOK交換留学**  
 井上 結菜 (理学部4年 理学専攻)  
 研修先: 米国(カリフォルニア州) 英語: マットキ  
 大学入学前から決めた留学。第一志望であったマツキ大学は、想像以上に素晴らしい場所でありました。現地の日本人は多く、たくさんの人と交流しながら過ごすことができました。この「留学」は私を大きく成長させた。また私の「これからの生き方」も大きく変えました。ぜひ多くの人に、学生である時に英語研修を通じて夢の国を体験してほしいです。

**私費休学留学 (アメリカ大学1年留学)**  
 藤原 真希 (理学部4年 理学専攻)  
 研修先: 米国(カリフォルニア州) 英語: マットキ  
 実社会が求めているスキルを身につけたいという思いで、留学準備をスタートしましたが、留学準備で英語力を伸ばした後に現地の大学と一緒に関門講座を受けることができた。最終的には自由にコミュニケーションをとれるまでになりました。授業から学んだことと一緒に、毎朝新しいことを学びました。充実した留学生活でした。

## 留学費用の奨学金ってあるの?

留学をサポートするために、岡山大学海外派遣学生支援事業奨学金などの制度が設けられています。主なものを紹介します。

種別	岡山大学海外派遣学生支援事業奨学金	JASSO 海外留学支援制度	文部科学省奨学金
金額	3万円、4万円、5万円 (定額給付金) 5万円、4万円、3万円 (大学独自の給付金) 10万円、4万円、20万円 (派遣奨励金の給付)	6~10万円/月 (派遣奨励金の給付) 英語支援金: 16万円 (1ヶ月前に申請承認済みの場合) 派遣費	6~16万円/月 (派遣奨励金の給付) 授業料: 15万円 10~40万円/年 (派遣奨励金の給付) 派遣費
対象学部	他の留学奨学金との重複は不可 卒業要件等の審査あり	英語、理工学系の専攻を志す学生 日本語能力は必ず合格 専攻(2次)コースのみ	日本語能力も必ず合格 専攻(2次)コースのみ 専攻(2次)コースのみ
申請期間	4月~専攻開始前 申請期間: 1週間 2週間(4月、10月)	留学プログラムごとに大学から申請	年2回(4月、10月) 岡山大学グローバル・パートナーズ Y 700-8530 岡山大学国際学生支援課(TEL) / FAX 086-251-7037 HP: <a href="http://www.okayama-u.ac.jp/ugp/">http://www.okayama-u.ac.jp/ugp/</a> Facebook: <a href="https://www.facebook.com/ugp.okayama">https://www.facebook.com/ugp.okayama</a>

## 外国語を話したい!

**l-cafe**  
 留学生や留学した先輩との交流を通じて、英語(英・仏・中・韓・日語)を学ぶ楽しさや暮らしを体験したり、文化や価値観を学ぶきっかけも提供されます!  
 一般教育棟C棟1階 月～金 10:00-18:00

## 留学について知りたい!

**留学相談室**  
 留学の魅力、留学プログラム、海外大学の様子、海外の生活等、留学した先輩学生の体験を聞いてみよう!  
 一般教育棟C棟1階 WAWA館  
 予約不要 月・水・火 17:00-18:30  
 ryugaku00@gmail.com

## 独自のカリキュラムで「留学」に備える!

**グローバル人材育成特別コース (国際実務コース)**  
 このコースは所属学部で実務や専門スキルを学びながら、同時に留学研修や海外留学・インターンシップ等を含むグローバルスキルを磨く副専攻です。コース中は、海外留学に役立つスキルアップ教育を中心とした高度な実務教育、高度なコミュニケーション能力育成、社会実務への理解を深めるための個別指導やコミュニケーション能力向上研修など、充実した独自のプログラムで学び、豊かな知識とグローバルリーダーシップを身に付けます。このコースからは卒業認定者「高度実務人」として多くの企業が認定されています。  
 岡山大学グローバル人材育成推進ホームページ <http://global.okayama-u.ac.jp/index.html>

## 皆さんの留学を応援します!

**グローバル・パートナーズ 留学交流課**  
 スタディ・アブロード部門  
 派遣申請書による留学支援をしています。  
 予約不要 一般教育棟C棟1階 月～金 8:30-17:00  
 E-mail: ryugaku@adm.okayama-u.ac.jp

**岡山大学 グローバル・パートナーズ**  
 〒700-8530 岡山県北区津島4丁目1番1号 TEL: 086-251-7037  
 HP: <http://www.okayama-u.ac.jp/ugp/>  
 Facebook: <https://www.facebook.com/ugp.okayama>

岡山大学

「経験する」ことが「学ぶ」。

# 留学のススメ

Center for Global Partnerships and Education  
 グローバル・パートナーズ

岡山大学

## 岡山大学留学のススメ

### なぜ留学?

一般に海外留学をすることは、様々なメリットがあります。留学に挑戦がある人、実力を向上させたい人、将来グローバルに活躍したい人、ぜひチャレンジしてほしい!

語学力が向上!  
 自分を磨ける  
 外国を理解する  
 世界とつながる

### どんな留学があるの?

**交換留学**  
 大学間協定に基づき学生が互方向に派遣。授業料不要。

**語学研修**  
 専攻科目に関連した1~6週間の留学または語学・実務、習熟。

**ボランティア**  
 JICAなどが実施する1週間~1年の活動。

### 留学の準備は?

**経費は?**  
 ...研修期間は約10万円  
 ...留学は約120万円

**準備期間は?**  
 ...3~9ヶ月程度

**留学先は?**  
 ...47都道府県・海外  
 ...TOEFL、IELTS  
 ...集中別荘研修もあり!

**説明会?**  
 ...47都道府県・海外

詳細は<http://www.okayama-u.ac.jp/ugp/>

## EPOK 交換留学プログラム

世界に広がるEPOK交換留学協定校 (2019年1月15日現在)

**イギリス**

- エディンバラ大学
- マンチェスター大学
- グラスゴー大学
- カーディフ大学
- アバドン大学

**中国**

- 清華大学
- 北京航空航天大学
- 上海交通大学
- 浙江大学
- 香港科技大学
- 香港中文大学
- 香港理工大学
- 香港城市大学
- 北京理工大学
- 北京交通大学
- 北京邮电大学
- 北京科技大学
- 北京工业大学
- 北京航空航天大学
- 北京理工大学
- 北京交通大学
- 北京邮电大学
- 北京科技大学
- 北京工业大学

**アメリカ合衆国**

- アイオワ大学
- ミネソタ大学
- ペンシルベニア州立大学
- オハイオ州立大学
- ウィシコンシン州立大学
- イリノイ大学
- ミシシッピ州立大学
- アラバマ大学
- ジョージア工科大学
- テキサスA&M大学
- オクラホマ州立大学
- コロラド州立大学
- ニューメキシコ州立大学
- ユタ州立大学
- ワイオミング州立大学
- モンタナ州立大学
- アイダホ州立大学
- ワシントン州立大学
- オレゴン州立大学
- カリフォルニア州立大学
- ハワイ大学

## 留学スケジュール例

コース	4x	5x	6x	7x	8x	9x	10x	11x	12x	1x	2x	3x	4x	5x	6x	7x	8x	9x	10x	11x	12x	1x	2x	3x	4x	5x	6x	7x	
語学研修	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
交換留学	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
専攻科目	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
休学期間	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施

## 語学研修・短期海外研修

まずはステップを履いて海外へ!

研修先	研修期間	研修内容
ハワイ大学	1週間	英語研修
オーストラリア大学	2週間	英語研修
ニュージーランド大学	2週間	英語研修
カナダ大学	2週間	英語研修
ドイツ大学	2週間	英語研修
フランス大学	2週間	英語研修
イタリア大学	2週間	英語研修
スペイン大学	2週間	英語研修
ポルトガル大学	2週間	英語研修
韓国大学	2週間	英語研修
中国大学	2週間	英語研修
台湾大学	2週間	英語研修
香港大学	2週間	英語研修
シンガポール大学	2週間	英語研修
インドネシア大学	2週間	英語研修
タイ大学	2週間	英語研修
フィリピン大学	2週間	英語研修
ベトナム大学	2週間	英語研修
オーストラリア大学	2週間	英語研修
ニュージーランド大学	2週間	英語研修
カナダ大学	2週間	英語研修
ドイツ大学	2週間	英語研修
フランス大学	2週間	英語研修
イタリア大学	2週間	英語研修
スペイン大学	2週間	英語研修
ポルトガル大学	2週間	英語研修
韓国大学	2週間	英語研修
中国大学	2週間	英語研修
台湾大学	2週間	英語研修
香港大学	2週間	英語研修
シンガポール大学	2週間	英語研修
インドネシア大学	2週間	英語研修
タイ大学	2週間	英語研修
フィリピン大学	2週間	英語研修
ベトナム大学	2週間	英語研修

## 各学部・研究科が実施する研修プログラムやインターンシップなど

学部・研究科	実施プログラム
工学部	工学部海外研修プログラム
理学部	理学部海外研修プログラム
経済学部	経済学部海外研修プログラム
法学部	法学部海外研修プログラム
文学部	文学部海外研修プログラム
教育学部	教育学部海外研修プログラム
健康科学部	健康科学部海外研修プログラム
国際文化学部	国際文化学部海外研修プログラム
環境学部	環境学部海外研修プログラム
芸術学部	芸術学部海外研修プログラム
体育学部	体育学部海外研修プログラム
看護学部	看護学部海外研修プログラム
歯学部	歯学部海外研修プログラム
獣医学部	獣医学部海外研修プログラム
農学部	農学部海外研修プログラム
森林学部	森林学部海外研修プログラム
工学部	工学部海外研修プログラム
理学部	理学部海外研修プログラム
経済学部	経済学部海外研修プログラム
法学部	法学部海外研修プログラム
文学部	文学部海外研修プログラム
教育学部	教育学部海外研修プログラム
健康科学部	健康科学部海外研修プログラム
国際文化学部	国際文化学部海外研修プログラム
環境学部	環境学部海外研修プログラム
芸術学部	芸術学部海外研修プログラム
体育学部	体育学部海外研修プログラム
看護学部	看護学部海外研修プログラム
歯学部	歯学部海外研修プログラム
獣医学部	獣医学部海外研修プログラム
農学部	農学部海外研修プログラム
森林学部	森林学部海外研修プログラム

※留学のススメ三つ折りパンフレット



<資料②-派-7> (出典：学内資料)

IELTS や TOEFL の対策講座 (H26-29)

年度	日時	講座名	参加人数 (人)	対象
平成 29	12月9日(土)9:00-16:20 国際交流会館交流棟	IELTS(Writing/Speaking) 対策講座 (1日)	20	初・中級～
	6月8日(木)13:00-16:00 C32	TOEFL-IBT初心者向けセ ミナー	18	初級～
平成 28	6月11日(土)10:00-17:00 国際交流会館交流棟	IELTS対策講座(1日)	24	初級～
	11月12日13日9:00-16:20 国際交流会館交流棟	IELTS(Writing/Speaking) 集中対策講座 (2日間)	24	初・中級～
平成 27	7月11日(土)10:00-17:00 @B32	IELTS対策セミナー(1日)	24	初級～
	8月4日(火) 10:00-17:00 @D22	TOEFL-iBTスキルアップセ ミナー①(前期)	21	初級～
	11月1日(日)9:00-16:00 11月15日(日)9:00-16:00 @C25	IELTS(Writing/Speaking) 集中対策講座 (2日間)	①18 ②15	初・中級～
	11月21日(土)10:00-17:00 @D42	TOEFL-iBTスキルアップセ ミナー②(後期)	7	初級～
	11月21日(土)10:00-17:00 @D22.23.24.25	岡山大学IELTS団体受験 (岡大枠 20名)	15	
平成 26	7月19日(土)10:00-17:00 @L-Café	IELTS対策セミナー(1日)	24	初級～
	8月10日(土)11(日)12日 (月)L-café'9:00-16:20	IELTS夏期集中講座(3日 間)30名限定	16	留学対象
	9月6日(土)10:00-17:00 @D22.23.24.25	岡山大学IELTS団体受験 導入 (岡大枠 20名)	12	

<資料②-派-8> (出典：岡山大学ウェブサイト)

・海外留学奨学金

[http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/students/haken/students\\_hakenscholarship\\_jpn.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ouic/japanese/students/haken/students_hakenscholarship_jpn.html)

奨学金名	奨学金額	採用予定人数	募集期間
岡山大学海外派遣学生支援事業	【派遣地域】 1.アジア地域の者:3万円 アジア地域以外の者:5万円 2.学業成績が特に優秀と認められた者には、アジア地域の場合には5万円、アジア地域以外の場合には8万円支給 3.大学院の正規課程に在籍し、留学期間が90日以上の場合には、派遣地域がアジア地域の場合には10万円、アジア地域以外の場合には20万円を支給	300名程度(予定)	【留学等終了日が H30.4.1～H30.9.30の間】 H30.10.1～H30.10.31  【留学等終了日が H30.10.1～H31.3.31の間】 H31.4.1～H31.4.30
トビタテ！留学ジャパン日本代表プログラム (全国コース)(オープンコース)	【奨学金(月額)】 北米、シンガポール、欧州(一部地域を除く)、中近東:16万円 アジア(シンガポールを除く)、大洋州・中南米・アフリカ及び指定の除外国:12万円 ※オープンコースは地域に関係なく6万円  【留学準備金】 アジア地域:15万円 アジア地域以外:25万円  【授業料】 支援期間が1年を超える:60万円 支援期間が1年未満:30万円	【H30年度前期(8期)】 <全国コース> 理系、複合・融合系人材:200名 新興国:70名 世界トップレベル大学等:90名 多様性人材:90名  <オープンコース> 理系、複合・融合系人材:20名 新興国:10名 世界トップレベル大学等:10名 多様性人材:10名	【H30年度前期(8期)】 H29.7.3～H29.10.6 (※学内ア切)  ※留学開始日:H30.4.1～ H30.10.31まで
トビタテ！留学ジャパン日本代表プログラム (地域コース)「おかやま若者グローバル チャレンジ応援事業」	【奨学金(月額)】 北米、シンガポール、欧州(一部地域を除く)、中近東:16万円 アジア(シンガポールを除く)、大洋州・中南米・アフリカ及び指定の除外国:12万円  【留学準備金】 アジア地域:10万円 アジア地域以外:20万円  【授業料】 上限30万円	【H29年度後期(7期)】 7名	【H29年度後期(7期)】 H29.1.31～H29.4.7  ※留学開始日:H29.8.18～ H30.3.31まで
日本学生支援機構留学生交流支援制度 (協定派遣・短期派遣)	月額:6・7・8・10万円	【H29年度採択結果】 重点政策:2プログラム(46名) タイプA:1プログラム(6名) タイプB:4プログラム(26名)	日本学生支援機構が指定する期間 (H30年度募集:未定)  ※参考:H29年度募集 (H28.10.3～H28.10.20)
グローバル人材自己啓発奨励金事業	国外開催:欧州・アフリカ・中南米15万円 北米・オセアニア10万円 アジア7万円 国内開催:2万円	支援件数:年間15件程度(年間予算規模約100万円)	【第1回】 提出期日:H29.10.13 (対象期間:H29.4～H29.9)  【第2回】 提出期日:H30.4.13 (対象期間:H29.10～H30.3)

※その他、主な地方自治体・外国政府・財団法人の奨学金情報についても一覧表にて提示している。

・金光賞 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7469.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7469.html)

金光賞は、篤志家の金光富男氏(本学2期卒業生)のご厚志による寄付に基づき授与する賞である。大学院生は、主に博士課程・博士後期課程に在学中の学生で、顕著な研究業績等を上げた者を対象、学部生は、当該年度に4年生となる者で留学等の国際的な活動に優れ、学業優秀な者を対象としている。各研究科・学部から1人ずつ選出して顕彰している。

**【分析結果とその根拠理由】**

国際的な教育環境の構築については、第2期・第3期中期計画、スーパーグローバル大学創成支援事業、平成26年度国立大学改革強化推進事業の主要な取組であり、毎年度、年度計画を策定し、数値目標を立てて計画的に取り組んでいる。国際化に対応する組織体制を機能強化し、幅広い国々との提携や海外事務所を通して国際交流を実現している。全学一体で教育の国際通用性（60分・4学期制やFunctional GPAの全学導入、科目ナンバリングとシラバス英語化100%達成）に取り組み、海外生と国内生が共に学ぶ「グローバル・ディスカバリー・プログラム」を開設し、全学部で世界と地域を繋ぐグローバル実践型教育を展開するなど、全学的にグローバル教育を推進している。また、ソーシャルラーニングスペース「L-café」では多くの学生が留学生と交流しており、国際学生シェアハウスでは、日本人が外国人と共に生活するなど、日々の異文化体験と多文化理解の学びの場を提供している。

外国人学生の受入については、従前より行われていた岡山大学短期交換留学プログラム等の活性化に加えて、新規の正規留学生受入プログラム（グローバル・ディスカバリー・プログラム）や正規受入留学生促進プログラム（大学院予備教育特別コース）等の実施により、確実に受入数を増やしている。外国人学生に対する支援においては、各種通知書・申請書等の多言語化に加えて、L-caféや留学生相談室、留学生支援ボランティア等の設置によるサポート体制が整えられ、十分に機能している。さらに、外国人学生受入促進のための取組として、国際バカロレア入試の実施、海外事務所を活用した渡日前入試、実績評価型のA0入試が導入されているほか、諸外国での留学フェアへの参加及びフェアの開催、海外の高校訪問の実施、留学生向け大学紹介ムービーの作成等を行っている。

国内学生の海外派遣については、学部・学科及び大学院での取組のほかに、全学的に語学力向上及びグローバル社会の理解を目指すグローバル人材育成特別コースや、多様な海外短期研修プログラムの提供などを行っている。語学研修・サマー／スプリングスクールへの参加者数は大幅に増加し、特に入り口としての1年生の参加を得ることができたことが、学部4年間及び大学院教育の国際化に有効である。また、海外派遣者数は着実に増加している。

以上のことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

観点C-1-③： 活動の実績及び学生の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

1. 計画に対する各種取組の実施状況

教育の国際化の目的に照らし、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針は、適切に実施されている<別紙資料：教育の国際化に関連する計画の実施状況><別紙資料：教育の国際化と中期目標・中期計画>。

2. 各種教育プログラムの実施状況

学位取得を目的とする教育プログラム並びに学位取得を目的としない教育プログラムを種々実施<別紙資料：主な教育プログラム一覧>しており、その一つであるキャンパスアジアは、第1期（平成23～27年度）の事業期間において600人近くの学生交流<資料③-1>を行い、その実績や成果が認められ、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択され、現在第2期（平成28～32年度）のプログラムを進めている。また、グローバル人材育成特別コース（Gコース）の1期生に対する卒業時アンケートでは、「実践的な英語力とコミュニケーション力が身についた」とする者が93%と非常に高く、カリキュラム全体に対しても65%の学生が満足している<資料③-2>。なお、Gコース履修生のTOEICテスト（4月、12月）のスコアの伸びは1期生以降現在まで過去5年間、一貫して全学学生に比べて高い<資料③-3>。また、日本語関係科目の科目数及び履修者数（延べ人数）は増加しており、授業評価アンケートにおける授業満足度（5段階評価）も非常に高い<資料③-4>。

3. 外国人学生の受入実績及び国内学生の海外派遣実績

岡山大学短期留学プログラム（EPOK）をはじめとする大学間協定に基づく実績をはじめ、全体の外国人学生受入／国内学生海外派遣が増加している<別紙様式：外国人学生受入実績票・国内学生海外派遣実績票>ことから、大学間協定（H25：77件→H30：156件）や部局間協定（H25：118件→H30：151件）の拡充の成果及び学生に対する各種支援や受入促進のための取組等の成果が上がっている。

4. 外国人学生の卒業（修了）の状況及び卒業後の進路

留学生の標準修業年限内卒業（修了）率／「標準修業年限×1.5」年限内卒業（修了）率は、平成27年度は86%/100%、平成28年度は87%/98%、平成29年度は89%/99%であり、国内学生と同程度である<資料③-5>。卒業（修了）後の進路状況（平成26～28年度）は学部卒業生47人のうち14人が就職、11人が進学、その他が22人、大学院修了生226人のうち、96人が就職、41人が進学、その他が89人である<資料③-6>。

5. L-café 利用状況

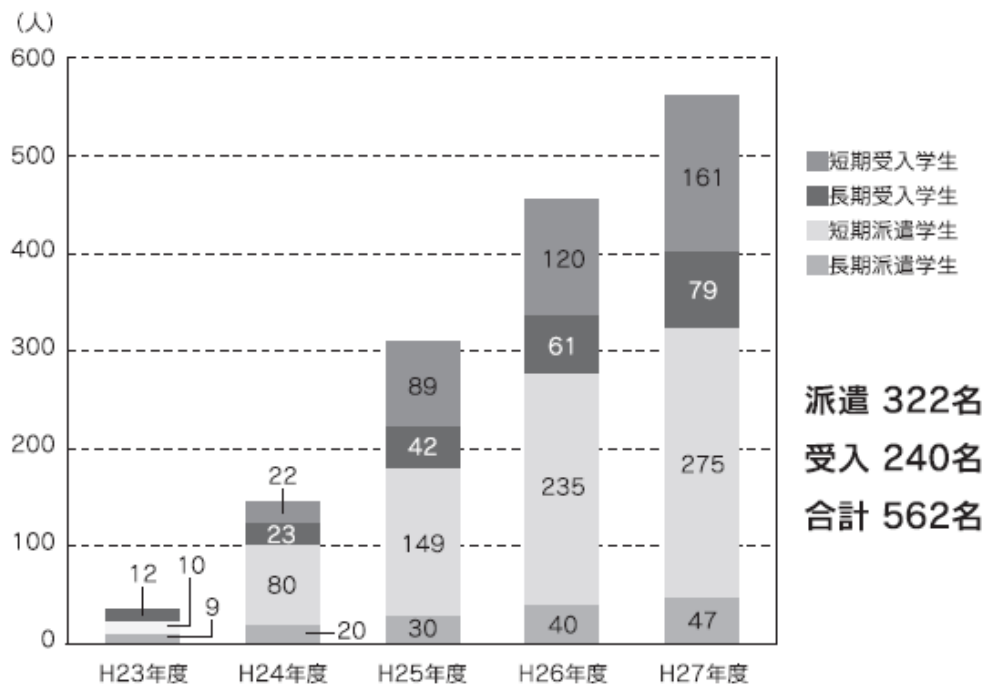
英語やその他言語のコミュニケーション・スキルを主体的かつ積極的に伸ばす実践的な学びの場を学生に提供することを目的として開設されたL-caféは、語学学習については、英語だけではなく、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の初修外国語カフェや日本語カフェも定期的で開催され、カフェ開催以外の時間でも、それぞれの言語を学ぶ日本人学生や留学生が集い、会話したり、勉強したり、くつろいだりと多様な目的で利用されている。留学生の多くは週に4回以

上L-caféを訪れており<資料③-7>、利用者数は平成25年度17,294人から平成29年度31,313人へと大幅に増加している<資料③-8>。

<資料③-1> (出典：岡山大学キャンパス・アジア事業総月成果報告書 p.10)

岡山大学キャンパス・アジア 派遣・受入留学生数 (第1期プログラム・累計)

<http://campus-asia.ccsv.okayama-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/report01.pdf>

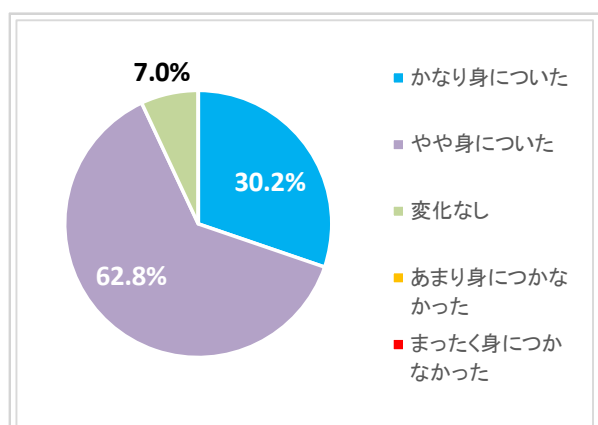


<資料③-2> (出典：学内資料)

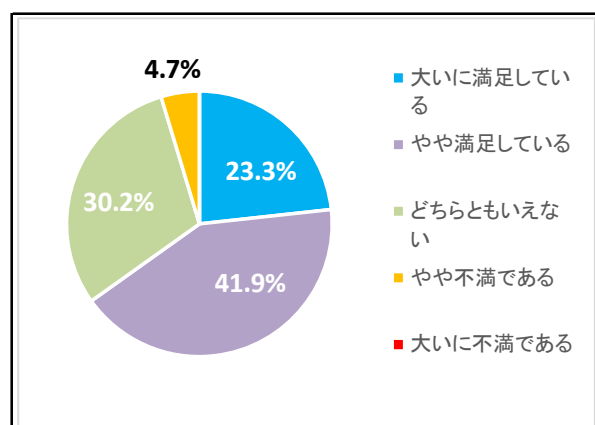
グローバル人材育成特別コース1期生に対する卒業時アンケート結果 (抜粋、H29年1月実施)

○Gコース履修前と現在を比較して実践的な英語力とコミュニケーション力が身についた

○Gコースのカリキュラムに満足していますか



かなり身についた	13	30.2%
やや身についた	27	62.8%
変化なし	3	7.0%
あまり身につかなかった	0	0.0%
まったく身につかなかった	0	0.0%



大いに満足している	10	23.3%
やや満足している	18	41.9%
どちらともいえない	13	30.2%
やや不満である	2	4.7%
大いに不満である	0	0.0%

<資料③-3> (出典：学内資料)

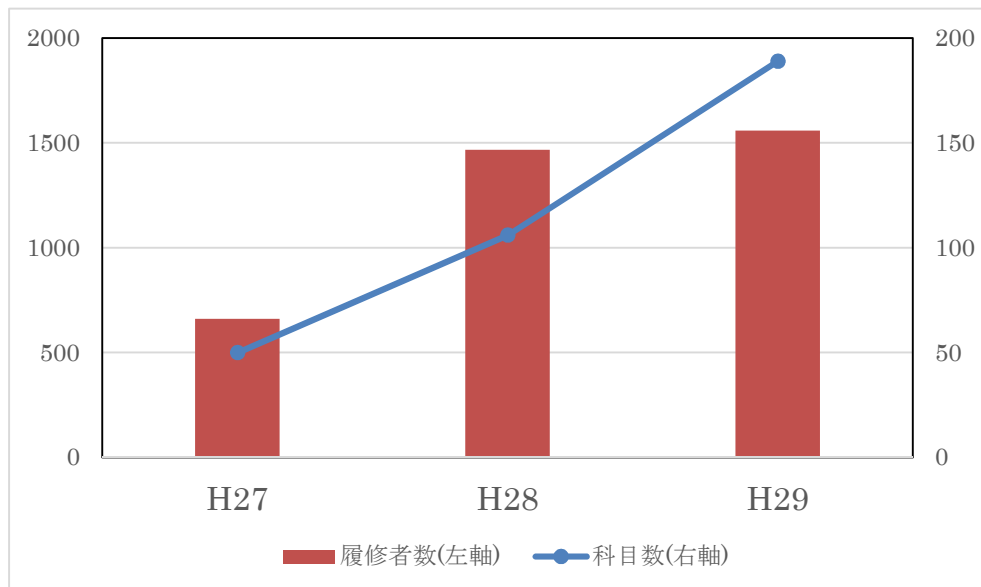
グローバル人材特別コース TOEIC スコアの伸び (4月から12月へのスコアの推移)

		4月	12月	伸び
2013年度	Gコース生	655	733	<b>78</b>
	全学	457	482	25
2014年度	Gコース生	667	706	<b>39</b>
	全学	476	474	-2
2015年度	Gコース生	631	675	<b>44</b>
	全学	473	475	2
2016年度	Gコース生	626	667	<b>41</b>
	全学	464	475	11
2017年度	Gコース生	644	683	<b>39</b>
	全学	480	478	-2

※4月・12月の2回とも受検した者について集計

<資料③-4> (出典：学内資料)

日本語関係科目 (日本語科目+日本理解科目) の科目数と履修者数(延べ人数)の推移



	日本語関係科目			内訳					
				日本語科目			日本理解科目		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
科目数	50	106	189	46	98	175	4	8	14
履修者数	661	1466	1559	593	1324	1484	68	142	75
授業満足度(5段階) 平均評点 (※上記科目の平均)	4.47	4.54	4.64	4.45	4.53	4.64	4.61	4.55	4.59

&lt;資料③-5&gt; (出典：学内資料)

留学生の標準修業年限内卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率

平成27年度卒業・修了										
学部・研究科	全 体					うち留学生				
	卒業・修了者数	標準修業年限内		標準修業年限×1.5以内		卒業・修了者数	標準修業年限内		標準修業年限×1.5以内	
文学部	169	144	85%	168	99%	3	2	67%	3	100%
教育学部	287	264	92%	285	99%					
法学部	228	202	89%	222	97%	3	3	100%	3	100%
経済学部	250	213	85%	246	98%	1			1	100%
理学部	159	136	86%	155	97%	1	1	100%	1	100%
医学部	288	272	94%	288	100%					
歯学部	54	48	89%	53	98%	1	1	100%	1	100%
薬学部	80	78	98%	80	100%					
工学部	528	464	88%	519	98%	6	6	100%	6	100%
環境理工学部	153	136	89%	151	99%					
農学部	118	113	96%	116	98%					
MPコース	19	16	84%	19	100%					
教育学研究科	85	81	95%	83	98%	6	6	100%	6	100%
医歯薬学総合研究科 修士課程	23	22	96%	23	100%					
医歯薬学総合研究科 博士前期課程	30	30	100%	30	100%					
自然科学研究科 博士前期課程(理学系)	86	82	95%	84	98%	5	5	100%	5	100%
自然科学研究科 博士前期課程(工学系)	329	320	97%	327	99%	14	13	93%	14	100%
保健学研究科 博士前期課程	22	21	95%	22	100%					
社会文化科学研究科 博士前期課程	57	42	74%	53	93%	19	16	84%	19	100%
環境生命科学研究科 博士前期課程	133	128	96%	133	100%	14	14	100%	14	100%
自然科学研究科 博士後期課程	33	19	58%	29	88%	11	8	73%	11	100%
自然科学研究科 5年一貫制博士課程	1	1	100%	1	100%	1	1	100%	1	100%
法務研究科	19	15	79%	19	100%					
医歯薬学総合研究科 博士課程	121	55	45%	96	79%	5	4	80%	5	100%
医歯薬学総合研究科 博士後期課程	3	2	67%	3	100%					
保健学研究科 博士後期課程	6	1	17%	4	67%					
環境学研究科 博士後期課程	3		0%	2	67%	1			1	100%
社会文化科学研究科 博士後期課程	6	2	33%	5	83%	3	1	33%	3	100%
環境生命科学研究科 博士後期課程	28	20	71%	28	100%	9	8	89%	9	100%
計	3,318	2,927	88%	3,244	98%	103	89	86%	103	100%

平成28年度卒業・修了										
学部・研究科	全 体					うち留学生				
	卒業・修了者数	標準修業年限内		標準修業年限×1.5以内		卒業・修了者数	標準修業年限内		標準修業年限×1.5以内	
文学部	192	159	83%	188	98%	3	2	67%	3	100%
教育学部	286	265	93%	285	100%					
法学部	204	188	92%	202	99%	2	2	100%	2	100%
経済学部	219	199	91%	217	99%	3	3	100%	3	100%
理学部	144	132	92%	142	99%	1	1	100%	1	100%
医学部	286	270	94%	286	100%					
歯学部	54	48	89%	53	98%					
薬学部	76	72	95%	75	99%					
工学部	486	434	89%	480	99%	6	6	100%	6	100%
環境理工学部	146	135	92%	145	99%	3	1	33%	3	100%
農学部	119	111	93%	118	99%					
MPコース	14	11	79%	11	79%					
教育学研究科	78	76	97%	78	100%	6	6	100%	6	100%
医歯薬学総合研究科 修士課程	28	28	100%	28	100%	3	3	100%	3	100%
医歯薬学総合研究科 博士前期課程	34	33	97%	34	100%					
自然科学研究科 博士前期課程(理学系)	83	79	95%	83	100%	2	2	100%	2	100%
自然科学研究科 博士前期課程(工学系)	318	313	98%	317	100%	13	13	100%	13	100%
保健学研究科 博士前期課程	33	31	94%	33	100%					
社会文化科学研究科 博士前期課程	69	58	84%	63	91%	24	22	92%	23	96%
環境生命科学研究科 博士前期課程	139	133	96%	137	99%	18	17	94%	18	100%
自然科学研究科 博士後期課程	33	24	73%	31	94%	11	8	73%	11	100%
自然科学研究科 5年一貫制博士課程	3	3	100%	3	100%	3	3	100%	3	100%
法務研究科	12	8	67%	12	100%					
医歯薬学総合研究科 博士課程	108	52	48%	85	79%	5	3	60%	5	100%
医歯薬学総合研究科 博士後期課程	5	4	80%	4	80%	1			0	0%
保健学研究科 博士後期課程	5	2	40%	2	40%					
社会文化科学研究科 博士後期課程	4	1	25%	2	50%	1	1	100%	1	100%
環境生命科学研究科 博士後期課程	20	15	75%	19	95%	7	4	57%	7	100%
計	3,198	2,884	90%	3,133	98%	112	97	87%	110	98%



平成29年度卒業・修了										
学部・研究科	全 体					うち留学生				
	卒業・修了者数	標準修業年限内		標準修業年限×1.5以内		卒業・修了者数	標準修業年限内		標準修業年限×1.5以内	
文学部	177	161	91%	174	98%	2	2	100%	2	100%
教育学部	288	266	92%	286	99%					
法学部	211	186	88%	208	99%	1	1	100%	1	100%
経済学部	245	215	88%	241	98%	1	1	100%	1	100%
理学部	156	142	91%	155	99%	4	3	75%	4	100%
医学部	291	273	94%	290	100%					
歯学部	49	46	94%	49	100%					
薬学部	78	74	95%	77	99%					
工学部	501	446	89%	489	98%	4	3	75%	4	100%
環境理工学部	149	132	89%	147	99%					
農学部	123	113	92%	122	99%					
MPコース	17	15	88%	17	100%					
教育学研究科	77	72	94%	76	99%	6	6	100%	6	100%
医歯薬学総合研究科 修士課程	21	21	100%	21	100%	1	1	100%	1	100%
医歯薬学総合研究科 博士前期課程	30	28	93%	29	97%					
自然科学研究科 博士前期課程(理学系)	94	94	100%	94	100%	6	6	100%	6	100%
自然科学研究科 博士前期課程(工学系)	334	329	99%	334	100%	12	12	100%	12	100%
保健学研究科 博士前期課程	30	27	90%	27	90%					
社会文化科学研究科 博士前期課程	60	41	68%	55	92%	29	26	90%	29	100%
環境生命科学研究科 博士前期課程	141	135	96%	140	99%	18	18	100%	18	100%
自然科学研究科 博士後期課程	27	20	74%	27	100%	15	11	73%	15	100%
自然科学研究科 5年一貫制博士課程	2	2	100%	2	100%	2	2	100%	2	100%
法務研究科	17	13	76%	17	100%					
医歯薬学総合研究科 博士課程	120	56	47%	92	77%	9	8	89%	9	100%
医歯薬学総合研究科 博士後期課程	5	4	80%	5	100%					
保健学研究科 博士後期課程	13	5	38%	9	69%					
社会文化科学研究科 博士後期課程	5	1	20%	4	80%	1		0%	1	100%
環境生命科学研究科 博士後期課程	39	32	82%	38	97%	22	18	82%	21	95%
計	3,300	2,949	89%	3,225	98%	133	118	89%	132	99%

<資料③-6> (出典：学内資料)

平成 26～28 年度の留学生の卒業・修了後の去就状況

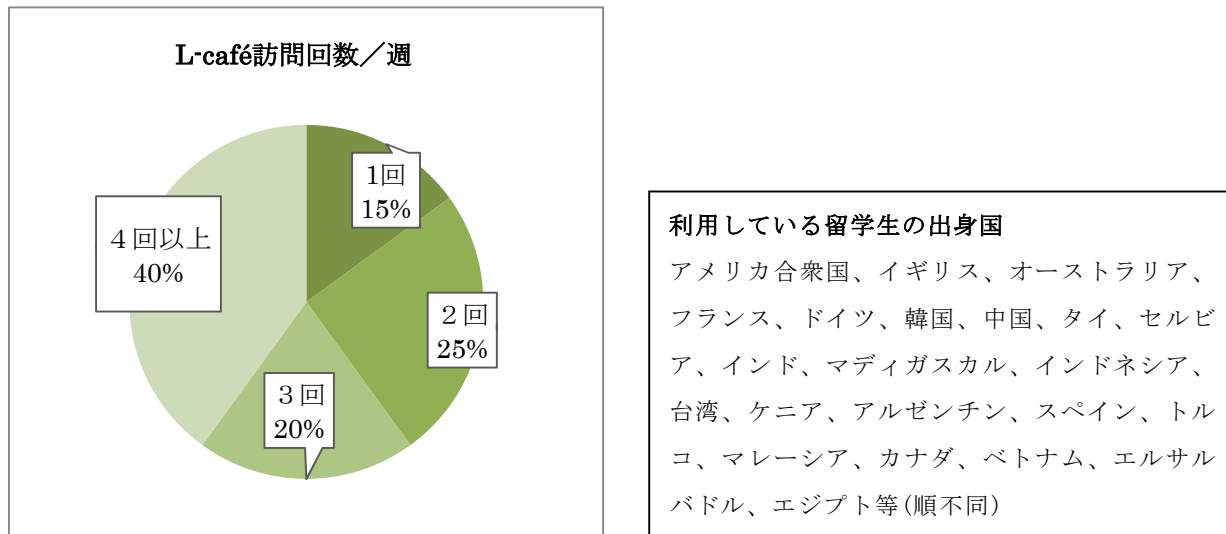
区分	平成26年度				平成27年度				平成28年度				合計				
	全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		全体		うち留学生		
就職	学部	1,249	63%	6	52%	1,335	65%	6	37%	1,259	65%	2	36%	3,843	64%	14	40%
	大学院	807		27		830		35		844		34		2,481		96	
進学	学部	680	23%	4	17%	692	22%	5	23%	685	23%	2	16%	2,057	22%	11	19%
	大学院	54		7		46		20		43		14		143		41	
その他 (※)	学部	298	14%	2	30%	306	13%	6	40%	282	12%	14	48%	886	13%	22	41%
	大学院	158		17		145		38		105		34		408		89	
合計	学部	2,227		12		2,333		17		2,226		18		6,786		47	
	大学院	1,019		51		1,021		93		992		82		3,032		226	

※未定・不明等



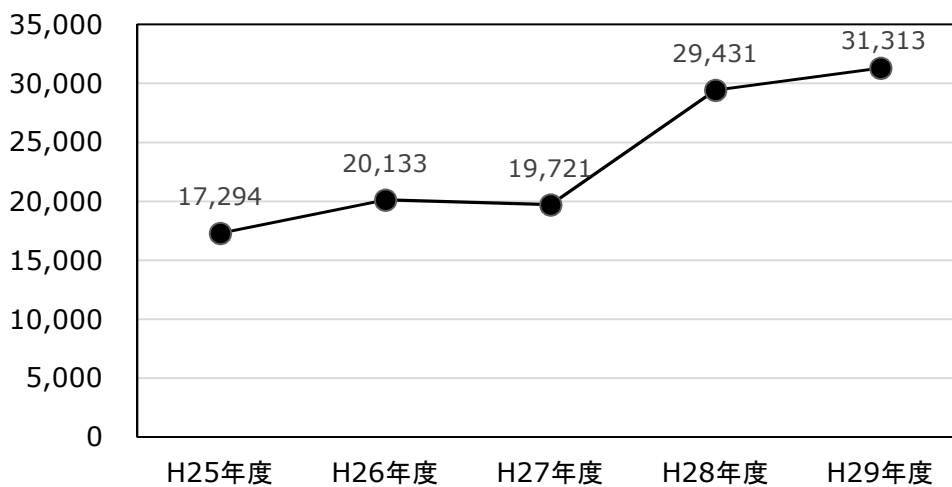
<資料③-7> (出典：学内資料)

留学生のL-café利用状況 (対象人数20人、実施時期：平成27年10月)



<資料③-8> (出典：学内資料)

L-café利用者数



**【分析結果とその根拠理由】**

各種教育プログラムを種々実施しており、海外協定校数の増加等に伴い、国内学生海外派遣数及び外国人学生受入数は増加している。さらに、Gコース履修生の語学力向上も TOEIC スコアに成果が表れている。日本語関係科目の科目数及び履修者数は増加しており、かつ学生アンケートの結果から満足度は非常に高い。留学生の標準修業年限内卒業（修了）率/「標準修業年限×1.5」年限内卒業（修了）率は、国内学生と同程度の標準修業年限内で卒業（修了）している。また、留学生の卒業（修了）後の進路状況に関しては、半数以上の学生が就職または進学している。実践的な学びの場である L-café は、英語だけではなく、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の初修外国語カフェや日本語カフェが開設されるなど、多様な目的で利用されており、利用者数も大幅に増加している。以上から、活動の実績及び学生の評価等から判断して、活動成果が上がっていると判断する。

観点C-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

本学では、教育の国際化を重要な改革に位置付けており、学長・理事の下に実務家集団 5U (UEA：教育先導 University Education Administrator、URA：研究展開 University Research Administrator、UAA：入試・キャリア支援 University Admission Administrator、UGA：国際戦略 University Global Administrator、UPR：広報戦略 University Public Relations) を置き、教育の国際化へ向けた組織や設備の整備、プログラム開発、留学支援、学生の異文化理解教育など多岐にわたる改善・取組を展開している<資料④-1>。

中期目標・中期計画・年度計画は、評価センターにより評価・管理され、取組の継続的改善へと結び付けられている<別紙資料：教育の国際化と中期目標・中期計画>。また、「スーパーグローバル大学創成支援事業」では、取組事項毎にレビューシートを作成の上、大学改革推進プロジェクト本部会議を通じて進捗管理をしており、毎年度外部評価委員会の評価を受けている。昨年度実施された文部科学省による中間評価では、A 評価が得られた。具体事例では、GPA 制度の見直し等に認められるように、過去の取組を常に見直しの対象とすることで、全学を通して改善・見直しのPDCA サイクルを回している<資料④-2>。さらに、平成 29 年度には IR/IE 室を設置し、情報を収集・分析する機能の充実を図った。

平成 25 年度には留学関連事務のワンストップサービスを実現するため、グローバル・パートナーズを設置し事務体制の改革を行った。平成 26 年度にはスーパーグローバル大学創成支援事業採択を受けて、大学改革推進プロジェクト本部会議を発足させ、高等教育開発推進機構を設置（平成 26 年度）するとともに、改革プランの策定を推し進め学内意思統一を行い、改革へ向けた学内体制の整備を行った。教務面では異文化理解教育の推進、ナンバリング制度の導入（平成 27 年度）、60 分 4 学期制やシラバスの英語化 100 パーセント（平成 28 年度）などの教育の国際性を高める改革を行っている。さらに、国際学生シェアハウスの新築（平成 28 年度）を行い留学生の受入環境の改善を行うなど、教育の国際化を支える基盤部分の改善・取組を行ってきた。教育プログラムでは平成 25 年に全学横断型プログラムとして「グローバル人材育成特別コース」を設け、さらに、平成 29 年度には英語をベースに専門力を身に付けさせ、日本人と留学生が共に学ぶ「グローバル・ディスカバリー・プログラム」を開始した。学部、研究科においては短期海外研修を中心とした専門分野に応じた特色ある教育プログラムを展開し、新規海外渡航プログラムを開発するなど、専門教育における教育の国際化に向けた改善を進めている。

## &lt;資料④-1&gt; (出典：学内資料)

## 教育の国際化に向けた活動の状況を検証する組織

- 執行部  
週1回：大学戦略会議※  
月1回：役員会  
※[参考]大学戦略会議の目的  
大学運営・経営上重要となる案件について、執行部の情報共有・意思疎通・共通認識を図りつつ、各理事の政策立案に至る過程での学長・理事の意見吸い上げ、戦略ビジョンの見定め、財務的視点での経営判断確認等テーマ別熟議を展開する。
- 国際関係（グローバル・パートナーズ、グローバル人材育成院）【国際担当理事】  
以下の会議を通じて情報共有、問題点の把握、改善に向けた検討を進めている。  
週1回：執行部会議（センター長、副センター長、事務）。  
月1回：グローバル・パートナーズ運営委員会、グローバル人材育成院運営委員会
- 教育関係【教育担当理事】  
各委員会等（高等教育開発推進室会議、FD 委員会等）で検証の上、全学教育推進委員会（月1回）で審議されている。
- 評価センター  
本学の教育研究等の質的な保証、活動の活性化を図るとともに社会への説明責任を果たすことを目的に設置された全学センターである。中期目標・中期計画の達成度を評価する法人評価、教育の質的保証に関わる評価を行う認証評価（直近の受審：H26「適合」<別紙資料：大学機関別認証評価の自己評価書・評価報告書>）等の対応を行っている。  
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/index.html>
- IR/IE室  
学長の下で、学内の関連部署と連携の上、以下の業務を行う。  
一 学内外の教育研究及び業務運営等にかかる情報の収集と分析  
二 IRに基づいた計画立案、戦略策定及び意思決定に資する情報の提供  
三 その他本学におけるIR/IEの推進に関する事項
- スーパーグローバル大学創成支援事業【企画・評価・総務担当理事】  
取組事項毎にレビューシートを作成の上、大学改革推進プロジェクト本部会議（四半期に1回程度）にて進捗状況を管理している。また、外部評価委員会（年1回）を開催している。  
外部評価委員会：<https://www.sgu.ccsv.okayama-u.ac.jp/news/93.html>

## &lt;資料④-2&gt; (出典：学内資料)

## 教育の国際化に関連する主な改善の取組

改善事例		概要等
国際 通 用	60分授業・4学期制 (クォーター制)の 導入	90分を2時間とみなしていた状況から脱却し、学びの強化を図るため、教育の実質化(60分×2回)を行った。また、4学期制(クォーター制)を導入することで、短期間で集中的に学ぶことを可能にし、海外留学、長期インターンシップやボランティア課外活動等の多様な学外活動を可能とした。
生 の 高 い	科目ナンバリング	平成27年度に全学導入したナンバリングコードの分析及び検証を行い、教授内容に対応するナンバリングコードが不明確であり、また60分授業・4学期制にて開講科目が増加したため、同一のコードになっている科目が散見されたため、付番システムの改善を行った。
教 育 課 程	GPA制度の見直し (Functional GPAへ の転換)	平成20年度に導入したGPA制度を、各科目の成績をより細かく反映させるため、平成28年度より評語(A+, A, B, C)をGP(4, 3, 2, 1)に置き換えて算出する方法から、評点(100~60)をGP(4.5~0.5)に置き換えて算出する方法に変更した。

の 編 成 等	国際バカロレア入試	平成 24 年 4 月から導入している国際バカロレア入試について、平成 25 年度入試の結果を受け、平成 26 年度出願時には、従来フルディプロマプログラムの取得が条件であったところを、取得見込みでも出願できるように条件を緩和し、志願者が出願しやすくなるように改善した。また、海外の IB 校の状況を調査するなどし、志願者の出願時期を 2 週間前倒しするなど、IB 入試の充実を図った。
	グローバル・ディスカバリー・プログラム	学部・学科横断的なプログラムを展開していたマッチングプログラムコース(平成 18 年開設)を拡充・発展させ、学部・学科横断型マッチング・トラックに、英語のみで卒業可能なディスカバリー専修トラックを加えた「グローバル・ディスカバリー・プログラム」を平成 29 年度に開設した。グローバル・ディスカバリー・プログラムは、海外生と国内生が英語を共通言語として共に学ぶ、総合大学ならではのグローバル人材育成教育プログラム(学士課程)である。
組 織 体 制	全学教育・学生支援機構の改革	教育関係の機構・全学センターを、教育の質の向上を統一したガバナンスの下で効果的に機能させるために、関係 2 機構(高等教育開発推進機構を含む)、7 センターを全学教育・学生支援機構として平成 28 年度に統合した。
	グローバル・パートナーズ	平成 26 年に、国際センターを改組・充実し、本学の国際化に向けた取組を主体的に企画・実施するとともに、各部局の国際交流を強力にサポートできるよう、グローバル・パートナーズとして体制整備を図った。
日 常 の 国 際 化	L-café	平成 21 年に設置したイングリッシュ・カフェを、グローバル人材育成と異文化理解を更に深化・活性化し、より多くの学生にソーシャルラーニングの機会を提供する必要があるとの認識から、その機能を拡張し、平成 25 年に英語以外の言語にも触れられるソーシャルラーニングスペースとして「L-cafe」を設置した。また、平成 28 年には津島地区と離れた場所にある鹿田地区の学生のため、L-café shikata を設置した。現在は、英語レッスンに加え、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、日本語の各言語でのカフェを週 1 回開催している。
	国際シェアハウス	本学で学ぶ外国人留学生と日本人学生が共同生活を送り、日常生活を通じて異国の言語や文化、生活習慣に接することで、グローバルに活躍する人材を育てることを目的とし本学独自予算により建築した。鉄筋コンクリート造・地上 5 階建のシェアハウスには、30 ユニット(居室)が設けられ、各ユニットには、個人の私室 4 室と共通スペースを確保している。日本人学生 1 人を含む 4 人が 1 つのユニットで生活し、自然と交流できるよう意図されている(全 120 人:留学生 90 人、日本人 30 人)。これにより留学生の受入能力と日本人学生の異文化体験の機会は大きく強化された。

### 【分析結果とその根拠理由】

岡山大学では、学長をはじめとする大学執行部がリーダーシップを発揮し、組織体制が整備され、理事の管轄する委員会が教育の国際化へ向けた数多くの取組・改善を組織的に力強く推進している。取組の実施と検証の面からは、評価センター、大学改革推進プロジェクト本部会議、IR/IE 室、外部評価委員会等が確実な実施と成果を検証する体制を築いている。取組・改善は大学全体の施策である年度計画に従い、着実かつ継続的に実施され、教育の国際化へ向けた PDCA

サイクルが大学全体で機能して成果を上げている。以上により、改善のための取組が十分行われていると判断する。

## (2) 目的の達成状況の判断

岡山大学は「国際戦略ビジョン 21」、「岡山大学改革プラン」、「スーパーグローバル大学創成支援事業」、第3期中期目標・中期計画により、教育の国際化を進める上で必要な行動指針と明確な目標を公にしている。目標については具体的な年次計画・数値目標を設けている。

目標の達成に向けて、事務体制、教育体制の整備に努め、新規教育プログラムの開発、国際交流推進、異文化理解教育の推進など国際的な教育環境の構築を推し進めている。これにより、受入学生数や派遣学生数が増加するなどの具体的な成果が出ている。また、これらの取組を背景にした本学での教育プログラムに対する学生の満足度は高い。さらに、執行部メンバーが率いる各種委員会が中心となり、教育の国際化に向けた各種の改善を通して、常により良い教育の国際化に努めている。

以上のことから、岡山大学では教育の国際化へ向けて、改革実行プランを策定して着実に実行しており、さらにスーパーグローバル大学創成支援事業の外部評価においても高い評価を得ていることを踏まえ、目的の達成状況が極めて良好であると判断する。

## (3) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

#### ○岡山大学改革プランの策定と学びの強化の実現

岡山大学は、平成 26 年 4 月に大学改革担当理事（専任）及び大学改革担当学長補佐を配置して、改革を加速・強化して、「創造的国際学都」を目指して、聖域なき改革、組織に横串を通す改革を断行し、教育の国際化を推進した。この改革プランは、同年 9 月上記「スーパーグローバル大学創成支援事業」、同年 11 月「平成 26 年度国立大学改革強化推進事業」に採択された。後者では、平成 28 年度より、全学の学士課程教育において、60 分授業・4 学期制を導入することにより、教育改革「学びの強化」を実現した。全学部での実施は、国立の総合大学では全国初、4 学期制では、長期の留学生の送り出し・受け入れ、長期インターンシップの実現を容易にするなど、教育の国際化をめざし学事暦の柔軟化を図った。「スーパーグローバル大学創成支援事業」と「学びの強化」は改革の両輪として、平成 26 年度末に第 2 期中期目標・中期計画（平成 22 年度～平成 27 年度）に「戦略性が高く意欲的な計画」として追記され、平成 28 年最終評価で、その達成度を高く評価された。

#### ○グローバル・パートナーズ (Center for Global Partnerships and Education) を設置

平成 26 年、本学の国際化を一元的に推進する教職共同組織として国際センターを改組し、グローバル・パートナーズ (Center for Global Partnerships and Education) を設置した。学生派遣ならびに留学生受入を全学部・全研究科で促進するための体制を整えると共に、海外拠点や国際同窓会支部のネットワークを整備・構築し、特に教育の国際化を強力に推進する体制を強化している。

### ○世界と地域を繋ぐグローバル実践型教育の全学展開

教養教育では、ブリティッシュコロンビア大学（UBC）Co-op プログラムと連動し、受入留学生とともに、日本人学生を関係企業に派遣する本学独自の企業体験型科目「国際インターンシップ」等を開講し、平成 28 年度 4 科目 46 人、平成 29 年度 18 科目 287 人が履修した。専門教育では、全部局がそれぞれの専門性を活かした特色あるグローバル実践型教育を展開し、平成 28 年度 34 プログラム 263 人、平成 29 年度 35 プログラム 374 人が留学した。代表的なものとして、海外の研究室でメンバーの一員として研究に参加する「医学研究インターンシップ」、グアム・ベトナム・タイにおける農場実習を通して課題発見と解決を図る「海外短期農業体験実習」、日系企業のグローバル戦略と環境ものづくりを学ぶ「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」、カンボジア王国教育省、岡山の NGO、岡山県教育委員会等と連携して、小学校運動会の教育活動に関わる「カンボジア王国におけるサービス・ラーニング」があり、大学と地域・企業・国際社会との互惠性が保持された優れた取組である。

本学では“実社会で適切な判断をくだすことができる能力を持ち、世界で活躍できる「高度実践人」”の表彰を開始し、ルーブリックで成長過程を検証して、平成 28 年度認定者 82 人、平成 29 年度認定者 127 人を選出した。

### ○国際バカロレア入試全学展開

国際バカロレア入試による選抜については、本学が、グローバルに活躍できる人材を育成する趣旨から、その中核となる人材を受け入れるため、平成24年4月入学から、全国の国公立大学に先駆けて導入し、秋入学にも対応している。さらに平成27年度入試からは、全ての学部で国際バカロレア入試による選抜を行っている。特に、医学部医学科では、定員5人を明示して実施している。

### ○グローバル人材育成特別コースの深化

本学独自のグローバル人材育成に向けた取り組みとして平成 25 年度に設置されたグローバル人材育成特別コースは、5 年が経過し、平成 29 年度末で 2 期目の修了生を輩出した。

本コースは所属学部で教養や専門を学びながら、同時に海外研修・留学等を備えた独自のカリキュラムを履修できる副専攻コースとして設置された。運営組織としてグローバル人材育成院を設置、これまで延べ 500 人を超えるコース生について、将来グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、教育および学生支援を行ってきた。本コースの教育は SDG s 達成に向けた本学の取り組みの 1 つでもあり、入学前から本コースに注目する高校生からの問い合わせも年々増えている。海外留学を経験したコース生はその後もとどまることなく、学生向けの国際会議（One Young World Summit、模擬国連等）に積極的にチャレンジするなど、「豊かな国際感覚とグローバルリーダーシップを育む教育」により、グローバルな視点を持つ実践的な人材が次々に本学に芽吹いている。

また、多数のコース生が「岡山大学高度実践人」に選ばれている（平成 28 年度認定者 82 人のうち 26 人、平成 29 年度認定者 127 人のうち 31 人）ことも特筆すべき点である。グローバル人材育成院では教育の充実を図るため毎年度カリキュラムの見直しを実施、平成 29 年度には多様化する留学スタイルや部局ごとに異なる学修計画に対応できるカリキュラムを目指し大規模な改正を行い、語学力基準と留学形式が異なる 4 つのグループ制を導入した。これにより平成 29 年

度からコース申請者数が著しく増加した。平成30年度からはさらに部局との連携を強化し、本学学生の海外派遣の促進につながる全学グローバル教育への発展と同時に本コースの深化を目指していく。

### ○多様性を軸とするグローバル・ディスカバリー・プログラム

海外生（30人）と国内生（30人）が、英語を共通言語として共に学ぶ学士課程プログラム「グローバル・ディスカバリー・プログラム」は、学部・学科の境界を越えて多様な専門知識と実践を学ぶ総合大学ならではのグローバル人材育成教育プログラムである。文理融合の全学プログラムとして開設し、英語のみで卒業できる「ディスカバリー専修トラック」と、学部授業を組み合わせ履修する「学部・学科横断型マッチング・トラック」を設定している。10月入学の国際入試では78人の応募者から17カ国34人の合格者を得て（入学者は31人16の国と地域から）、平成29年10月スタートした。平成30年4月には、国内生等31人を迎え、第1期生が揃った。

### ○岡山大学ミャンマー事業から国立六大学による国際連携事業への展開

本学は、過去20年に及ぶ先駆的なミャンマー医療支援事業を基に、平成25年3月に発足した「国立六大学国際連携機構」の主幹校として現地事務所を活用しながら、医療・工学分野での人材育成のJICAプロジェクト等の共同事業を実施している。平成28年3月、三菱商事と本学を共同代表として、省庁、企業、大学（六大学含む）等計70機関が参加する「ミャンマー人材育成支援産学官連携ぷらっとフォーム」を設立した。国立六大学国際連携機構は、アジア地域では平成27年9月にASEAN+3 UNetに加盟し、欧州では平成28年3月にオランダ高等教育国際協力機構と協定を締結し、8月には欧州拠点として、オランダに国立六大学欧州事務所を開設した。本取組は、地方大学が連携し産学官の協働の下、国際化を推進するモデルとして意義が大きい。

### ○文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の対象に選定された本学の「PRIME プログラム：世界で活躍できる『実践人』を育成する！」の着実な進展

スーパーグローバル大学創成支援事業中間評価（平成29年度）において、本学が学長のリーダーシップの下、全学一丸となった取り組みを実施している点が評価されてA評価を受けた。具体的な取り組みとして、グローバル人材育成特別コース、グローバル実践型教育の全学展開、グローバル・ディスカバリー・プログラムの開始、平成30年大学院ヘルスシステム統合科学研究科開設準備等が特記された。

全学一体で教育の国際通用性拡大に取り組み、60分・4学期制やFunctional GPAの全学導入、科目ナンバリングとシラバス英語化100%達成に加え、留学生受入れ、学生の海外派遣とも着実に増加し、国際同窓会52拠点（支部）とともに、目標値を達成している。また、インフラ整備として、国際学生シェアハウスを自己資金で建設し運用を開始し、ソーシャル・ラーニング・スペースL-caféの拡充を進め、学修支援サポートがハード面・ソフト面ともに強化された。さらに、受入留学生等に対するメンタルヘルス対策を平成30年度から開始している。

学修成果として、世界で活躍できる「高度実践人」を選出（平成28年度認定者82人、平成29年度認定者127人）したほか、本学学生2人が、日本代表として世界ユースサミットOne Young World 2017に参加した。また国際活動等で顕著な成果を挙げた学生等の学内顕彰制度として「金光賞」を新設し、平成30年度入学式に続けて第1回授賞式が行われ、20人が表彰された。



○学長のリーダーシップの下で SDGs 推進体制の構築－第 1 回「ジャパン SDGs アワード」特別賞「パートナーシップ賞」受賞－

「楨野ビジョン」の下、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献する活動に、SDGs に関する岡山大学の行動指針を策定して取り組み、SDGs の達成に向けた岡山大学の取組事例集を公開した。また、5 月には、国連広報センター及び国連大学サステイナビリティ高等研究所と学長が意見交換を行い、8 月には岡山経済同友会講演会で学長が本学の SDGs 推進を説明し、9 月には日本学術会議若手アカデミーとの共催で SDGs シンポジウム、10 月には国連開発計画から講師を招いた SDGs 学内特別講演会、12 月には国連大学サステイナビリティ高等研究所等と SDGs をテーマにした「REC 第 1 回世界会議」を開催した。これらの活動が評価され、12 月には、日本政府が SDGs 達成に資する優れた取組を行っている企業・団体等を表彰する第 1 回「ジャパン SDGs アワード」の特別賞「SDGs パートナーシップ賞」を、国公立大学で唯一受賞した。

**【改善を要する点】**

該当なし